

## 学びのイノベーション事業 授業実践報告 様式

学校名： 京都市立桃陽総合支援学校		
学級(学習集団)等の概要		
本時の学習集団等の特徴	<input type="checkbox"/> 通常の学習集団 <input checked="" type="checkbox"/> 通常とは異なる学習集団	本時の学習集団の人数： 8人
	<input checked="" type="checkbox"/> 複数学年の児童生徒で構成 <input type="checkbox"/> 習熟度別の学習集団を構成 <input type="checkbox"/> 小・中学校等との交流及び協働学習(次の2項の場合を除く) <input type="checkbox"/> 児童生徒の前籍校との交流及び共同学習 <input type="checkbox"/> 他の特別支援学校との交流 <input checked="" type="checkbox"/> 分校、分教室(病院内の学級を含む)等、普段は異なる場で学習する児童生徒で構成 <input checked="" type="checkbox"/> ベッドサイドで学習する児童生徒と教室で学習する児童生徒で構成 <input type="checkbox"/> 病院内の学級の児童生徒のみで構成 <input type="checkbox"/> ベッドサイドで学習する児童生徒のみ <input checked="" type="checkbox"/> 発達障害のある児童生徒が含まれる <input type="checkbox"/> 知的障害のある児童生徒が含まれる <input type="checkbox"/> 肢体不自由のある児童生徒が含まれる	

学級(学習集団)等の概要	
授業日時:平成 25年 5月 2日 2時限目	学年: 小学部 第 2・3学年
教科等	<input checked="" type="checkbox"/> 各教科 (国語) <input type="checkbox"/> 自立活動 <input type="checkbox"/> 総合的な学習の時間 <input type="checkbox"/> 特別活動 <input type="checkbox"/> その他 ( )
単元名	「ふきのとう」(2年), 「きつつきの商売」(3年)
単元・題材の目標	(2年) ・語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができるようにする。 ・場面の様子について、登場人物の様子や会話を中心に想像を広げながら読むことが出来るようにする。 (3年) ・場面の様子が分かるように音読を工夫し、発表する事ができるようにする。
単元全体の流れ	(2年) (全10時間) 第1時 物語を音読する楽しさについて話し合う。 第2時 学習課題を設定し、学習計画を立てる。 第3時 「ふきのとう」を読み、感想を交流し、あらすじをとらえる。 第4時 物語の中にどんな登場人物が出てくるかをまとめる。 第5時 全文を音読しおもしろいところや好きなところを見つける。 第6時 役割を決め、各教室で音読をする。 第7時 音読発表会をし、感想を交流する。(7/10) (本時)

	<p>第8時 春をテーマにした本を読む。</p> <p>第9時 自分選んだ本を音読して伝えあう。</p> <p>第10時 教科書 p15 の絵を見て、「一と、一」の文型を使って文を書く。 (3年) (全9時間)</p> <p>第1時 「きつつきの商売」を読み、学習の見通しをもつ。</p> <p>第2時 物語全体が1・2の二つの「おとや」の場面で構成されていることを知り、それぞれの場面を読み比べる。</p> <p>第3時 野うさぎが注文した音や場面の様子を想像し、きつつきの日記を書く。</p> <p>第4時 野ねずみの家族の会話からにぎやかな様子を想像して日記を書く。</p> <p>第5時 音読発表会の計画を立てる。</p> <p>第6時 分担を決めて各教室で練習をする。</p> <p>第7時 音読発表会をし、感想を交流する。(7/9) (本時)</p> <p>第8時 「こんな動物がお店を開いたら、おもしろいな」と思うものを想像して「かんばん」を書く。</p> <p>第9時 友達と作品を見せ合い、感想を交流する。</p>
本時の目標	<p>(2年) 登場人物の様子が伝わる読み方を工夫して、音読することができる。</p> <p>(3年) 話の内容が伝わるような工夫をして、音読することができる。</p>
本時の授業形態	本時の授業の場
<input type="checkbox"/> 一斉学習 <input checked="" type="checkbox"/> 協働学習 <input type="checkbox"/> 個別学習	<input type="checkbox"/> 児童生徒が1か所に集まって実施 <input checked="" type="checkbox"/> 校内の複数の教室等(同一敷地内)をネットワークで結んで実施 <input checked="" type="checkbox"/> 本校、分校、分教室(病院内の学級を含む)等をネットワークで結んで実施 <input type="checkbox"/> 本校等の教室と病院・施設等(病院内の学級を除く)をネットワークで結んで実施 <input type="checkbox"/> 本校等の教室と小・中学校、他の特別支援学校等をネットワークで結んで実施
本時の指導体制	<input type="checkbox"/> 担当教員1名のみ <input checked="" type="checkbox"/> 複数教員による指導 <input checked="" type="checkbox"/> ICT支援員によるサポート <input type="checkbox"/> 特別支援教育支援員等によるサポート(主として学習支援) <input type="checkbox"/> 特別支援教育支援員等によるサポート(主として介助等)

本時における情報通信技術の活用	
活用した機器	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テレビ会議システム</li> <li>・リモートカメラ</li> </ul>
活用したコンテンツ	
活用の目的	<input checked="" type="checkbox"/> 課題の提示や動機付け <input checked="" type="checkbox"/> まとめや振り返り <input type="checkbox"/> 児童生徒による発表や話し合い、教え合い <input checked="" type="checkbox"/> 教員による説明 <input type="checkbox"/> 観察・実験や調査の記録 <input type="checkbox"/> レポート、作品等の作成 <input type="checkbox"/> 繰り返しによる定着 <input type="checkbox"/> 直接経験の代行 <input checked="" type="checkbox"/> 意志の伝達

本時の展開		
学習の流れと児童生徒の活動	指導・支援のポイント	使用した機器・コンテンツ
<ul style="list-style-type: none"> <li>テレビ会議システムを通して、本校と分教室、ベットサイドの生徒であいさつをする。</li> <li>音読発表会の説明をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>他学年の発表を聞いている時は、いい所を見つけながら聞くように伝える。</li> </ul>	テレビ会議システム リモートカメラ
<b>協働学習</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>2年生は「ふきのとう」を音読発表する。</li> <li>3年生は発表を聞く。</li> <li>感想を交流する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>聞いている人に伝わりやすいように、大きな声でゆっくりと発表することを心がけるよう伝える。</li> <li>3年生は、2年生のいい所を見つけながら聞くことを伝える。</li> </ul>	テレビ会議システム リモートカメラ
<ul style="list-style-type: none"> <li>3年生は「きつつきの商売」を音読発表する。</li> <li>2年生は発表を聞く。</li> <li>感想を交流する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>聞いている人に伝わりやすいように、大きな声でゆっくりと発表することを心がけるよう伝える。</li> <li>2年生は、3年生のいい所を見つけながら聞くことを伝える。</li> </ul>	テレビ会議システム リモートカメラ
<ul style="list-style-type: none"> <li>今日の授業の感想を言う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>感想を交流できていない児童を指名するようにし、本校・分教室・ベットサイドの全ての児童に発表の機会をつくる。</li> </ul>	テレビ会議システム リモートカメラ

協働学習の実施状況	<input type="checkbox"/> 児童生徒が教え合う場面があった <input type="checkbox"/> 児童生徒が話し合う場面があった <input checked="" type="checkbox"/> 児童生徒が協力したり助け合ったりする場面があった <input type="checkbox"/> 一人の発表を基に学級(学習集団)全体で考える場面があった <input checked="" type="checkbox"/> 同じ問題について学級(学習集団)全体で話し合う場面があった <input checked="" type="checkbox"/> ネットワークを活用して遠隔地と結んで学ぶ場面があった
-----------	---

情報通信技術の活用のねらいと効果、課題	
活用のねらい	<p>本校・分教室の児童は、それぞれ違う病院に入院しており、「同じ学校の生徒」という意識は薄くなりがちである。そのため、「1つの学校である」という意識を育てるということをねらいとした。また、協働学習等で意見を交換することで、学習意欲の向上を目指す。</p>
活用の効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日練習してきた音読を、違う場所にいながらみんなで読み進めることができ、一体感を感じることができた。</li> <li>・登校は出来なかったが、ベットサイドにいる状況の中でも参加する事ができ、自分の担当するところを音読することができた。</li> <li>・「音読発表会をする」という目標に向かって毎日練習する姿をみて、学習意欲の向上につながった。</li> </ul>
課題となる事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業者が授業しながら機器操作するのは難しいので、支援員が必要だと感じた。</li> </ul>

## 学びのイノベーション事業 授業実践報告 様式

学校名： 京都市立桃陽総合支援学校	
学級(学習集団)等の概要	
本時の学習集団等の特徴	<input checked="" type="checkbox"/> 通常の学習集団 <input type="checkbox"/> 通常とは異なる学習集団
	本時の学習集団の人数： <input type="checkbox"/> 複数学年の児童生徒で構成 <input type="checkbox"/> 習熟度別の学習集団を構成 <input type="checkbox"/> 小・中学校等との交流及び協働学習(次の2項の場合を除く) <input type="checkbox"/> 児童生徒の前籍校との交流及び共同学習 <input type="checkbox"/> 他の特別支援学校との交流 <input checked="" type="checkbox"/> 分校、分教室(病院内の学級を含む)等、普段は異なる場で学習する児童生徒で構成 <input type="checkbox"/> ベッドサイドで学習する児童生徒と教室で学習する児童生徒で構成 <input type="checkbox"/> 病院内の学級の児童生徒のみで構成 <input type="checkbox"/> ベッドサイドで学習する児童生徒のみ <input type="checkbox"/> 発達障害のある児童生徒が含まれる <input type="checkbox"/> 知的障害のある児童生徒が含まれる <input type="checkbox"/> 肢体不自由のある児童生徒が含まれる

学級(学習集団)等の概要	
授業日時:平成 25年 5月 8日 2時限目	学年: 小学部 第3学年
教科等	<input checked="" type="checkbox"/> 各教科 (理科) <input type="checkbox"/> 自立活動 <input type="checkbox"/> 総合的な学習の時間 <input type="checkbox"/> 特別活動 <input type="checkbox"/> その他 ( )
単元名	植物を育てよう
単元・題材の目標	身近な植物を育て、成長の過程や体のつくりを比較しながら調べ、成長のきまりや植物に共通してみられる体のつくりについての見方や考え方を持つことができるようにする。
単元全体の流れ	(1) ヒマワリやホウセンカなど、育てる植物を決め、種子の様子を観察し記録する。 (2) 種まきの準備をして、植物の種をまく。 (3) ヒマワリやホウセンカなどの芽生えを観察し、それらの共通点について考える。 (4) 芽生えた後の生長の様子を観察し、植えた植物をくらべる。 (5) 枯れた後の植物を観察し、まとめる。
本時の目標	(1) 育てる植物の種のまき方を知る。 (2) 育てる植物の種をまく。
本時の授業形態	本時の授業の場
<input type="checkbox"/> 一斉学習 <input checked="" type="checkbox"/> 協働学習 <input checked="" type="checkbox"/> 個別学習	<input type="checkbox"/> 児童生徒が1か所に集まって実施 <input type="checkbox"/> 校内の複数の教室等(同一敷地内)をネットワークで結んで実施 <input checked="" type="checkbox"/> 本校、分校、分教室(病院内の学級を含む)等をネットワークで結んで実施 <input type="checkbox"/> 本校等の教室と病院・施設等(病院内の学級を除く)をネットワークで結んで実施 <input type="checkbox"/> 本校等の教室と小・中学校、他の特別支援学校等をネットワークで結んで実施
本時の指導体制	<input type="checkbox"/> 担当教員1名のみ <input checked="" type="checkbox"/> 複数教員による指導

	<input checked="" type="checkbox"/> ICT支援員によるサポート <input type="checkbox"/> 特別支援教育支援員等によるサポート(主として学習支援) <input type="checkbox"/> 特別支援教育支援員等によるサポート(主として介助等)
--	--

本時における情報通信技術の活用	
活用した機器	テレビ会議システム, リモートカメラ
活用したコンテンツ	
活用の目的	<input checked="" type="checkbox"/> 課題の提示や動機付け <input type="checkbox"/> まとめや振り返り <input checked="" type="checkbox"/> 児童生徒による発表や話し合い、教え合い <input checked="" type="checkbox"/> 教員による説明 <input checked="" type="checkbox"/> 観察・実験や調査の記録 <input type="checkbox"/> レポート、作品等の作成 <input type="checkbox"/> 繰り返しによる定着 <input type="checkbox"/> 直接経験の代行 <input type="checkbox"/> 意志の伝達

本時の展開		
学習の流れと児童生徒の活動	指導・支援のポイント	使用した機器・コンテンツ
テレビ会議システムを通して、分教室と自己紹介をする。  本時の学習内容を知る。  <b>一斉学習</b> ホウセンカ、ヒマワリ、マリーゴールドの種子を比べながら、同じところや違うところを考え、発表する。  種子のまき方について知り、種子をプランターにまく。 本校、京大分教室、府立分教室とで話し合ってプランターの種をまく位置を決め、それぞれの名前プレートプランターの土に指す。	【カメラで拡大して映し、分教室の子ども達にも種子の差異を分かり易くする】  【発言する子どもは指導者が指名し、音声を重ねないように注意する】  【種子をまくときは、プランターを傾けて行い、種まきの様子がカメラに映りやすいようにする。】 ・一つ目の種を指導者がまき、それを手本にして、児童が種をまく。  ・教科書 p13 にも種まきのポイントが書いてあることを指導し、種子を	テレビ会議システム   テレビ会議システム リモートカメラ

<p><b>個別学習</b> それぞれの種子のまき方のポイントを整理し、ノートに書く。</p> <p>これからどのように育っていくか予想し、ノートに書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どんな芽が出るか。</li> <li>・いつごろ芽が出てくるか。</li> </ul> <p>など</p> <p><b>協働学習</b> ノートに書いた予想を発表しあい、意見を交流する。</p> <p>本時の感想を発表する。</p>	<p>植える深さと種と種のあける距離などキーワードを抜かさないようにチェックする。</p> <p>【発言する子どもは指導者が指名し、音声が重ならないように注意する。】</p>	<p>テレビ会議システム</p> <p>リモートカメラ</p>
<p>協働学習の実施状況</p>	<p><input type="checkbox"/> 児童生徒が教え合う場面があった    <input checked="" type="checkbox"/> 児童生徒が話し合う場面があった</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 児童生徒が協力したり助け合ったりする場面があった</p> <p><input type="checkbox"/> 一人の発表を基に学級(学習集団)全体で考える場面があった</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 同じ問題について学級(学習集団)全体で話し合う場面があった</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> ネットワークを活用して遠隔地と結んで学ぶ場面があった</p>	

情報通信技術の活用のねらいと効果、課題	
活用のねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童・生徒 [種子の違いを見つける]</li> <li>・指導者 [分教室の子どもに種子を見せ、違いを考えさせる。]</li> </ul>
活用の効果	植物や生き物を持ち込むことのできない分教室の子どもたちに種子を見せることができる。
課題となる事項	リモートカメラの画質では種子の特徴を見つけることがむずかしい。

## 学びのイノベーション事業 授業実践報告 様式

学校名： 京都市立桃陽総合支援学校		
学級(学習集団)等の概要		
本時の学習集団等の特徴	<input type="checkbox"/> 通常の学習集団 <input checked="" type="checkbox"/> 通常とは異なる学習集団	本時の学習集団の人数： 14名
	<input checked="" type="checkbox"/> 複数学年の児童生徒で構成 <input type="checkbox"/> 習熟度別の学習集団を構成 <input type="checkbox"/> 小・中学校等との交流及び協働学習(次の2項の場合を除く) <input type="checkbox"/> 児童生徒の前籍校との交流及び共同学習 <input type="checkbox"/> 他の特別支援学校との交流 <input type="checkbox"/> 分校、分教室(病院内の学級を含む)等、普段は異なる場で学習する児童生徒で構成 <input type="checkbox"/> ベッドサイドで学習する児童生徒と教室で学習する児童生徒で構成 <input type="checkbox"/> 病院内の学級の児童生徒のみで構成 <input type="checkbox"/> ベッドサイドで学習する児童生徒のみ <input checked="" type="checkbox"/> 発達障害のある児童生徒が含まれる <input type="checkbox"/> 知的障害のある児童生徒が含まれる <input type="checkbox"/> 肢体不自由のある児童生徒が含まれる	

学級(学習集団)等の概要	
授業日時:平成25年6月20日 5時限目	学年: 小学部 第2～6学年
教科等	<input type="checkbox"/> 各教科 ( ) <input type="checkbox"/> 自立活動 <input type="checkbox"/> 総合的な学習の時間 <input type="checkbox"/> 特別活動 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (道徳)
単元名	ぼくが生まれた日
単元・題材の目標	父母・祖父母を敬愛し、協力し合って楽しい家庭をつくろう 4-(3)
単元全体の流れ	急に勉強をがんばりだしたのび太くんの気持ちを考えることを通して、自分の家族のことを思いうかべ、自分のあるべき姿を考える。
本時の目標	家族の愛情に気づき、家族に感謝し、自分のあるべき姿に向かおうとする心情を育てる。
本時の授業形態	本時の授業の場
<input checked="" type="checkbox"/> 一斉学習 <input checked="" type="checkbox"/> 協働学習 <input checked="" type="checkbox"/> 個別学習	<input checked="" type="checkbox"/> 児童生徒が1か所に集まって実施 <input type="checkbox"/> 校内の複数の教室等(同一敷地内)をネットワークで結んで実施 <input type="checkbox"/> 本校、分校、分教室(病院内の学級を含む)等をネットワークで結んで実施 <input type="checkbox"/> 本校等の教室と病院・施設等(病院内の学級を除く)をネットワークで結んで実施 <input type="checkbox"/> 本校等の教室と小・中学校、他の特別支援学校等をネットワークで結んで実施
本時の指導体制	<input type="checkbox"/> 担当教員1名のみ <input checked="" type="checkbox"/> 複数教員による指導 <input type="checkbox"/> ICT支援員によるサポート <input type="checkbox"/> 特別支援教育支援員等によるサポート(主として学習支援) <input type="checkbox"/> 特別支援教育支援員等によるサポート(主として介助等)
本時における情報通信技術の活用	
活用した機器	IWD TPC

活用したコンテンツ	自作コンテンツ(パワーポイント) 協働学習システム	
活用の目的	<input checked="" type="checkbox"/> 課題の提示や動機付け <input checked="" type="checkbox"/> 児童生徒による発表や話し合い、教え合い <input type="checkbox"/> 観察・実験や調査の記録 <input type="checkbox"/> レポート、作品等の作成 <input type="checkbox"/> 直接経験の代行 <input type="checkbox"/> 意志の伝達	<input checked="" type="checkbox"/> まとめや振り返り <input checked="" type="checkbox"/> 教員による説明 <input type="checkbox"/> 繰り返しによる定着

本時の展開		
学習の流れと児童生徒の活動	指導・支援のポイント	使用した機器・コンテンツ
<p><b>一斉学習</b> 学習のめあてを知る。</p> <p>のび太くんは どうして急に勉強をがんばりだしたのでしょうか。</p> <p>資料「ぼくが生まれた日」の最後のひとコマを見て、話し合う。</p> <p><b>一斉学習</b> 資料「ぼくが生まれた日」を読んで、話し合う。</p> <p><b>個別学習</b> <b>協働学習</b> 協働学習システムに自分の考えを書き込んだ後、交流する。</p> <p><b>一斉学習</b> ねらいに沿う内容で学習のまとめをする。</p>	<p>・IWB(自作コンテンツ)でプレゼンをしながらか話をするようにする。(視覚的支援)</p> <p>・イラストや登場人物の絵を提示することで、登場人物の様子をイメージしやすくする。</p> <p>・セリフを隠して提示する。</p> <p>・のび太くんの性格や自分の日常と照らし合わせて考えられるようにする。</p> <p>・ロールプレイを通してのび太の気持ちを考えられるようにする。</p> <p>・まとめのプレゼンを見ることで、学習を振り返りやすくする。</p>	<p>IWD 自作コンテンツ</p> <p>TPC 協働学習システム</p>
協働学習の実施状況	<input type="checkbox"/> 児童生徒が教え合う場面があった <input type="checkbox"/> 児童生徒が話し合う場面があった <input type="checkbox"/> 児童生徒が協力したり助け合ったりする場面があった <input checked="" type="checkbox"/> 一人の発表を基に学級(学習集団)全体で考える場面があった <input type="checkbox"/> 同じ問題について学級(学習集団)全体で話し合う場面があった <input type="checkbox"/> ネットワークを活用して遠隔地と結んで学ぶ場面があった	

情報通信技術の活用のねらいと効果、課題	
活用のねらい	集団の中で発言することが苦手な児童が、協働学習システムに書き込むことで自分の考えや意見をみんなに伝える。
活用の効果	全員が自分の意見を書き込んで、共有することができた。協働学習システムの書き込みは後日授業内容とともに掲示し、振り返りに活用することができた。
課題となる事項	異年齢集団ということもあり、協働学習システムの書き込みをもとに話し合うところには至らなかった。

## 学びのイノベーション事業 授業実践報告 様式

学校名: 京都市立桃陽総合支援学校	
学級(学習集団)等の概要	
本時の学習集団等の特徴	<input checked="" type="checkbox"/> 通常の学習集団 <input type="checkbox"/> 通常とは異なる学習集団
	本時の学習集団の人数: 6名 <input type="checkbox"/> 複数学年の児童生徒で構成 <input type="checkbox"/> 習熟度別の学習集団を構成 <input type="checkbox"/> 小・中学校等との交流及び協働学習(次の2項の場合を除く) <input type="checkbox"/> 児童生徒の前籍校との交流及び共同学習 <input type="checkbox"/> 他の特別支援学校との交流 <input type="checkbox"/> 分校、分教室(病院内の学級を含む)等、普段は異なる場で学習する児童生徒で構成 <input type="checkbox"/> ベッドサイドで学習する児童生徒と教室で学習する児童生徒で構成 <input checked="" type="checkbox"/> 病院内の学級の児童生徒のみで構成 <input type="checkbox"/> ベッドサイドで学習する児童生徒のみ <input checked="" type="checkbox"/> 発達障害のある児童生徒が含まれる <input type="checkbox"/> 知的障害のある児童生徒が含まれる <input type="checkbox"/> 肢体不自由のある児童生徒が含まれる

学級(学習集団)等の概要	
授業日時: 平成 25 年 6 月 18 日 5 時限目	学年: 中学部 第 2 学年
教科等	<input checked="" type="checkbox"/> 各教科 (国語) <input type="checkbox"/> 自立活動 <input type="checkbox"/> 総合的な学習の時間 <input type="checkbox"/> 特別活動 <input type="checkbox"/> その他 ( )
単元名	「新しい短歌のために」 「短歌十二首」
単元・題材の目標	鑑賞文を書くために、短歌の中の言葉からどのような印象を受けるかなどを想像し、短歌に表れている情景や作者の思いを想像し、作者のものの見方や考え方について自分の意見を持つ。
単元全体の流れ	(1) ・俳句について・短歌の表現技法について。 ・「新しい短歌のために」の短歌について、作者が感じたであろうことを想像し、五感を活用して書く。 ・情景を一言でいうとどのような様子かということを書く。 (2) ・前回の授業で書いた意見を発表。 ・「短歌十二首」の中から好きな作品を選び、五感から感じられるものを書く。 (3) ・鑑賞文を書く。 (4) ・鑑賞文の発表。 ・お互いの鑑賞文を読み合い、コメントを書く。
本時の目標	(1) 作者のものの見方や考え方について自分の考えを持ち、鑑賞文を書く。 (2) 話す速度や音量、言葉の調子や間の取り方などに注意して、わかりやすい発表を行うこと。 (3) お互いの鑑賞文を読み合い、肯定的に指摘しあうこと。
本時の授業形態	本時の授業の場

<input checked="" type="checkbox"/> 一斉学習 <input type="checkbox"/> 協働学習 <input checked="" type="checkbox"/> 個別学習	<input checked="" type="checkbox"/> 児童生徒が1か所に集まって実施 <input type="checkbox"/> 校内の複数の教室等(同一敷地内)をネットワークで結んで実施 <input type="checkbox"/> 本校、分校、分教室(病院内の学級を含む)等をネットワークで結んで実施 <input type="checkbox"/> 本校等の教室と病院・施設等(病院内の学級を除く)をネットワークで結んで実施 <input type="checkbox"/> 本校等の教室と小・中学校、他の特別支援学校等をネットワークで結んで実施
本時の指導体制	<input checked="" type="checkbox"/> 担当教員1名のみ <input type="checkbox"/> 複数教員による指導 <input type="checkbox"/> ICT支援員によるサポート <input type="checkbox"/> 特別支援教育支援員等によるサポート(主として学習支援) <input type="checkbox"/> 特別支援教育支援員等によるサポート(主として介助等)

本時における情報通信技術の活用	
活用した機器	IWB, TPC, 協働学習システム
活用したコンテンツ	自作コンテンツ(コラボノート, パワーポイント)
活用の目的	<input checked="" type="checkbox"/> 課題の提示や動機付け <input checked="" type="checkbox"/> まとめや振り返り <input checked="" type="checkbox"/> 児童生徒による発表や話し合い、教え合い <input checked="" type="checkbox"/> 教員による説明 <input type="checkbox"/> 観察・実験や調査の記録 <input checked="" type="checkbox"/> レポート、作品等の作成 <input type="checkbox"/> 繰り返しによる定着 <input type="checkbox"/> 直接経験の代行 <input type="checkbox"/> 意志の伝達

本時の展開		
学習の流れと児童生徒の活動	指導・支援のポイント	使用した機器・コンテンツ
<b>【導入】</b> <input type="checkbox"/> 個別学習 ①鑑賞文を完成させる。	<b>【TPC, 協働学習システム】</b> ・短歌に表れている情景や作者の思いを想像し、書くことができているか確認する。	IWB (指導者) TPC (生徒)
<b>【展開】</b> <input type="checkbox"/> 一斉学習 ① 鑑賞文を発表する。	<b>【TPC, 協働学習システム】</b> ・話す速度や音量, 言葉の調子や間の取り方などに注意して, わかりやすい発表となるよう支援する。	TPC (生徒)
<b>【まとめ】</b> <input type="checkbox"/> 個別学習 ① お互いの鑑賞文を読み合い, コメントを付箋に書いて貼る。 ②鑑賞文に書かれたコメントを確認し, 今後に生かす。	<b>【IWB, 協働学習システム】</b> ・お互いの鑑賞文を読み合い, 肯定的に指摘しあえるように支援する。 ・他者の表現の工夫に気づき, 自分の表現の参考にする。	IWB (指導者) TPC (生徒)

協働学習の実施状況	<input type="checkbox"/> 児童生徒が教え合う場面があった <input checked="" type="checkbox"/> 児童生徒が話し合う場面があった <input type="checkbox"/> 児童生徒が協力したり助け合ったりする場面があった <input checked="" type="checkbox"/> 一人の発表を基に学級(学習集団)全体で考える場面があった <input checked="" type="checkbox"/> 同じ問題について学級(学習集団)全体で話し合う場面があった <input type="checkbox"/> ネットワークを活用して遠隔地と結んで学ぶ場面があった
-----------	---

情報通信技術の活用のねらいと効果、課題	
活用のねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意見を書くことが苦手であったり、書けなかつたりする生徒が、他者の書き方や意見を参考にして書けるようにすること。</li> <li>・手で書くと、文字や言葉がうまく書けない生徒や書くことに時間がかかる生徒が、パソコンを活用して文章が書けるようにする。</li> </ul>
活用の効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の意見などを言ったり書いたりすることが苦手で、普段授業に参加しにくい生徒が、他者の書き方や意見を参考にすることで、自分の意見を書くことができた。</li> <li>・手で書くと、文字や言葉がうまく書けなくても、パソコンを使用すると機械が変換してくれるということや、文の修正や追加といった編集作業が容易にできるので、文章を書くことができた。</li> <li>・自分の書く文字にコンプレックスを持つ生徒も、活字で表示されることでのびのびと書き、発表することができた。</li> <li>・電子黒板と協働学習システムを活用することで、他者の意見を皆で共有して見ることができた。</li> <li>・鑑賞文を電子黒板に映すことで、全員が顔を上げて発表を聞くことができていた。</li> <li>・鑑賞文を読み合い、自分と違う意見や捉え方を知ることができ、お互い肯定的に指摘することができた。</li> </ul>
課題となる事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々によって、TPCの文字入力のスPEEDに差がある。</li> <li>・文字の大きさにより、電子黒板に映した際に見えにくいこともある。</li> </ul>

## 学びのイノベーション事業 授業実践報告 様式

学校名: 京都市立桃陽総合支援学校	
学級(学習集団)等の概要	
本時の学習集団等の特徴	<input checked="" type="checkbox"/> 通常の学習集団 <input checked="" type="checkbox"/> 通常とは異なる学習集団
	本時の学習集団の人数: 本校6名, 府立2名 <input type="checkbox"/> 複数学年の児童生徒で構成 <input type="checkbox"/> 習熟度別の学習集団を構成 <input type="checkbox"/> 小・中学校等との交流及び協働学習(次の2項の場合を除く) <input type="checkbox"/> 児童生徒の前籍校との交流及び共同学習 <input type="checkbox"/> 他の特別支援学校との交流 <input checked="" type="checkbox"/> 分校、分教室(病院内の学級を含む)等、普段は異なる場で学習する児童生徒で構成 <input type="checkbox"/> ベッドサイドで学習する児童生徒と教室で学習する児童生徒で構成 <input type="checkbox"/> 病院内の学級の児童生徒のみで構成 <input type="checkbox"/> ベッドサイドで学習する児童生徒のみ <input checked="" type="checkbox"/> 発達障害のある児童生徒が含まれる <input type="checkbox"/> 知的障害のある児童生徒が含まれる <input type="checkbox"/> 肢体不自由のある児童生徒が含まれる

学級(学習集団)等の概要	
授業日時: 平成25年6月17日 6時限目	学年: 中学部 第2学年
教科等	<input checked="" type="checkbox"/> 各教科 (音楽) <input type="checkbox"/> 自立活動 <input type="checkbox"/> 総合的な学習の時間 <input type="checkbox"/> 特別活動 <input type="checkbox"/> その他 ( )
単元名	旋律線を生かした合唱の表現を工夫しよう
単元・題材の目標	旋律線を理解し、楽曲の味わいを感じ取って、それにふさわしい表現を工夫する。
単元全体の流れ	第1時 「夏の日の贈りもの」の模範唱を聴き、曲の構成や旋律の変化に関心を持つ。感じ取った曲想を生かしながら、歌詞唱する。 第2時(本時) 「夏の日の贈りもの」の旋律線の特徴からどのような歌い方をするとこの曲のイメージがより伝わるか考え、試してみる。 表現について工夫したことを生かして「夏の日の贈りもの」を合唱する。
本時の目標	二部合唱を府立の生徒に聴いてもらい、感想を聞いて、どのような歌い方の工夫ができるかを考える。
本時の授業形態	本時の授業の場
<input checked="" type="checkbox"/> 一斉学習 <input type="checkbox"/> 協働学習 <input type="checkbox"/> 個別学習	<input type="checkbox"/> 児童生徒が1か所に集まって実施 <input type="checkbox"/> 校内の複数の教室等(同一敷地内)をネットワークで結んで実施 <input checked="" type="checkbox"/> 本校、分校、分教室(病院内の学級を含む)等をネットワークで結んで実施 <input type="checkbox"/> 本校等の教室と病院・施設等(病院内の学級を除く)をネットワークで結んで実施 <input type="checkbox"/> 本校等の教室と小・中学校、他の特別支援学校等をネットワークで結んで実施
本時の指導体制	<input type="checkbox"/> 担当教員1名のみ <input checked="" type="checkbox"/> 複数教員による指導 <input checked="" type="checkbox"/> ICT支援員によるサポート



協働学習の実施状況	<input type="checkbox"/> 児童生徒が教え合う場面があった <input type="checkbox"/> 児童生徒が話し合う場面があった <input type="checkbox"/> 児童生徒が協力したり助け合ったりする場面があった <input type="checkbox"/> 一人の発表を基に学級(学習集団)全体で考える場面があった <input type="checkbox"/> 同じ問題について学級(学習集団)全体で話し合う場面があった <input checked="" type="checkbox"/> ネットワークを活用して遠隔地と結んで学ぶ場面があった
-----------	---

情報通信技術の活用のねらいと効果、課題	
活用のねらい	遠隔地を繋ぐことによって、離れた場所にいる友だちと交流する。
活用の効果	本校の生徒は、分教室の生徒に感想をもらって、自分たちの歌い方をどのように工夫できるかを考えることができた。
課題となる事項	マイクを 2 本用意したが、きちんと音を拾うためには、もう少し多くのマイクが必要である。

## 学びのイノベーション事業 授業実践報告 様式

学校名： 京都市立桃陽総合支援学校	
学級(学習集団)等の概要	
本時の学習集団等の特徴	<input checked="" type="checkbox"/> 通常の学習集団 <input type="checkbox"/> 通常とは異なる学習集団
	本時の学習集団の人数： 8名 <input type="checkbox"/> 複数学年の児童生徒で構成 <input type="checkbox"/> 習熟度別の学習集団を構成 <input type="checkbox"/> 小・中学校等との交流及び協働学習(次の2項の場合を除く) <input type="checkbox"/> 児童生徒の前籍校との交流及び共同学習 <input type="checkbox"/> 他の特別支援学校との交流 <input type="checkbox"/> 分校、分教室(病院内の学級を含む)等、普段は異なる場で学習する児童生徒で構成 <input type="checkbox"/> ベッドサイドで学習する児童生徒と教室で学習する児童生徒で構成 <input checked="" type="checkbox"/> 病院内の学級の児童生徒のみで構成 <input type="checkbox"/> ベッドサイドで学習する児童生徒のみ <input checked="" type="checkbox"/> 発達障害のある児童生徒が含まれる <input type="checkbox"/> 知的障害のある児童生徒が含まれる <input type="checkbox"/> 肢体不自由のある児童生徒が含まれる

学級(学習集団)等の概要	
授業日時:平成 25年 9月 19日 5時限目	学年: 中学部 第3学年
教科等	<input checked="" type="checkbox"/> 各教科 (社会科) <input type="checkbox"/> 自立活動 <input type="checkbox"/> 総合的な学習の時間 <input type="checkbox"/> 特別活動 <input type="checkbox"/> その他 ( )
単元名	個人の尊重と日本国憲法
単元・題材の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間の尊重についての考え方と法に対する関心を高め、それを意欲的に追及し、民主的な社会生活について考えようとする。</li> <li>・我が国の政治が日本国憲法に基づいておこなわれていることの意義について、民主的な社会生活にかかわる様々な事象から課題を見出し、対立と合意、効率と公正などの視点から多面的・多角的に考察する。また、その過程や結果を適切に表現する。</li> <li>・人間の尊重についての考え方と法に関する様々な資料を収集し、有用な情報を適切に選択するとともに、それを読み取ったり図表にまとめたりする。</li> <li>・人間の尊重についての考え方、法の意義と法に基づく政治の大切さ、日本国憲法が基本的人権の尊重、国民主権及び平和主義を基本原則としていること、天皇の地位と天皇の国事に関する行為について理解し、その知識を身につける。</li> </ul>
単元全体の流れ	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 法に基づく政治と日本国憲法             <ul style="list-style-type: none"> <li>・法に基づく政治と日本国憲法</li> <li>・日本国憲法の制定と基本原則</li> <li>・日本国憲法と国民主権</li> </ul> </li> <li>2 日本国憲法と基本的人権             <ul style="list-style-type: none"> <li>・人権思想のあゆみと日本国憲法</li> <li>・自由に生きる権利</li> <li>・等しく生きる権利①</li> </ul> </li> </ol>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バリアフリー社会をめざして - 堺市を例に -</li> <li>・等しく生きる権利②</li> <li>・人間らしい生活を営む権利</li> <li>・人権の保障を実現するための権利</li> <li>・社会の変化と人権尊重①</li> <li>・社会の変化と人権尊重②</li> <li>・人類の課題としての人権 (本時)</li> <li>・公共の福祉と国民の義務</li> </ul> <p>3 日本の平和主義</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本国憲法の平和主義</li> <li>・日本の平和と防衛の課題</li> </ul>
本時の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権尊重についての国際的な取り決めに調べ、基本的人権の保障は人類の共通課題であることを理解する。</li> <li>・児童の権利条約の主旨を知り、世界で厳しい状況におかれている子どもの現状について考える。</li> </ul>
本時の授業形態	本時の授業の場
<input type="checkbox"/> 一斉学習 <input checked="" type="checkbox"/> 協働学習 <input checked="" type="checkbox"/> 個別学習	<input type="checkbox"/> 児童生徒が1か所に集まって実施 <input checked="" type="checkbox"/> 校内の複数の教室等(同一敷地内)をネットワークで結んで実施 <input checked="" type="checkbox"/> 本校、分校、分教室(病院内の学級を含む)等をネットワークで結んで実施 <input type="checkbox"/> 本校等の教室と病院・施設等(病院内の学級を除く)をネットワークで結んで実施 <input type="checkbox"/> 本校等の教室と小・中学校、他の特別支援学校等をネットワークで結んで実施
本時の指導体制	<input checked="" type="checkbox"/> 担当教員1名のみ <input type="checkbox"/> 複数教員による指導 <input type="checkbox"/> ICT支援員によるサポート <input type="checkbox"/> 特別支援教育支援員等によるサポート(主として学習支援) <input type="checkbox"/> 特別支援教育支援員等によるサポート(主として介助等)

本時における情報通信技術の活用	
活用した機器	電子黒板
活用したコンテンツ	自作コンテンツ
活用の目的	<input checked="" type="checkbox"/> 課題の提示や動機付け <input checked="" type="checkbox"/> まとめや振り返り <input checked="" type="checkbox"/> 児童生徒による発表や話し合い、教え合い <input checked="" type="checkbox"/> 教員による説明 <input type="checkbox"/> 観察・実験や調査の記録 <input type="checkbox"/> レポート、作品等の作成 <input type="checkbox"/> 繰り返しによる定着 <input type="checkbox"/> 直接経験の代行 <input type="checkbox"/> 意志の伝達

本時の展開
-------

学習の流れと児童生徒の活動	指導・支援のポイント	使用した機器・コンテンツ
<ul style="list-style-type: none"> <li>プリントを配布する。 前時までの復習               <ul style="list-style-type: none"> <li>日本国憲法のなかの人権にはどんな種類があったか？</li> <li>「国連」はなんの略か？</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>はじめに生徒が答えやすい、簡単な質問をする。</li> </ul>	
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">世界の人権尊重に関する取組を学ぼう。</div>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ワークショップ「権利の熱気球」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシートを配布。</li> </ul>	IWB 自作コンテンツ
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">子どもたちに必要な権利とはなんだろう。</div>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークショップの説明をする。</li> <li>①8つの権利のうち、自分が必要だと思うものから順位づけていく。 (ワークシートに記入)</li> <li>②グループに分かれ、役割分担をする。</li> <li>③グループ内で意見交流する。 (模造紙に記入・貼り付け)</li> <li>④全体で発表・意見交流をする。</li> <li>⑤全体の発表を聞いて思ったことをワークシートに記入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>言葉の指示だけでは理解しにくい生徒には個別に具体例を示し、支援する。</li> <li>電子黒板やワークシート中に視覚資料を示し、視覚優位な生徒の思考の手助けをする。</li> <li>適宜巡回し、支援の必要のある生徒に声かけ、指導をする。</li> <li>生徒が決められた役割に従って行動できるように助言をする。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>ムービー「権利の熱気球」を使い、スラムに暮らす子どもたち、子ども兵士のエピソードを話す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>視覚資料を中心に、生徒の心に訴えかけるように話す。</li> </ul>	自作コンテンツ
<ul style="list-style-type: none"> <li>世界には厳しい状況で生きている子どもたちがいることを知り、彼らを含めた子どもの人権尊重のためになにができるのかを考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ほんとうのまえおき」を読む。</li> <li>何のための権利なのかを考えて権利を行使することが重要であることを話す。</li> <li>権利を行使するためには、その権利の内容をしっかりと理解する必要があることをおさえる。</li> </ul>	
<b>協働学習の実施状況</b>	<input checked="" type="checkbox"/> 児童生徒が教え合う場面があった <input checked="" type="checkbox"/> 児童生徒が話し合う場面があった <input checked="" type="checkbox"/> 児童生徒が協力したり助け合ったりする場面があった	

	<input checked="" type="checkbox"/> 一人の発表を基に学級(学習集団)全体で考える場面があった <input checked="" type="checkbox"/> 同じ問題について学級(学習集団)全体で話し合う場面があった <input type="checkbox"/> ネットワークを活用して遠隔地と結んで学ぶ場面があった
--	--

情報通信技術の活用のねらいと効果、課題	
活用のねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合いに夢中になってしまいそうなときに、視覚支援によって意識を次の活動に切り替えること。</li> <li>・視覚情報と聴覚情報を組み合わせることによって、生徒の心に余韻と問題提起を残すこと。</li> </ul>
活用の効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スライドが切り替わる度に現在の活動をいったんやめ、指示を聞くことができた。</li> <li>・世界の子どもの人権を取り巻く環境に興味をもつことができた。</li> </ul>
課題となる事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ムービーの不具合がおこり、生徒に十分な視覚支援をすることができなかった。</li> <li>・今回の交流はアナログの方法をとったが、コラボノートを活用し、デジタルな手段での交流も取り入れたい。</li> </ul>

## 学びのイノベーション事業 授業実践報告 様式

学校名： 京都市立桃陽総合支援学校	
学級(学習集団)等の概要	
本時の学習集団等の特徴	<input checked="" type="checkbox"/> 通常の学習集団 <input type="checkbox"/> 通常とは異なる学習集団
	本時の学習集団の人数： 7人 <input type="checkbox"/> 複数学年の児童生徒で構成 <input type="checkbox"/> 習熟度別の学習集団を構成 <input type="checkbox"/> 小・中学校等との交流及び協働学習(次の2項の場合を除く) <input type="checkbox"/> 児童生徒の前籍校との交流及び共同学習 <input type="checkbox"/> 他の特別支援学校との交流 <input type="checkbox"/> 分校、分教室(病院内の学級を含む)等、普段は異なる場で学習する児童生徒で構成 <input type="checkbox"/> ベッドサイドで学習する児童生徒と教室で学習する児童生徒で構成 <input type="checkbox"/> 病院内の学級の児童生徒のみで構成 <input type="checkbox"/> ベッドサイドで学習する児童生徒のみ <input checked="" type="checkbox"/> 発達障害のある児童生徒が含まれる <input type="checkbox"/> 知的障害のある児童生徒が含まれる <input type="checkbox"/> 肢体不自由のある児童生徒が含まれる

学級(学習集団)等の概要	
授業日時:平成 25年 5月23日 2時限目	学年: 中学部 第 3学年
教科等	<input checked="" type="checkbox"/> 各教科 (美術) <input type="checkbox"/> 自立活動 <input type="checkbox"/> 総合的な学習の時間 <input type="checkbox"/> 特別活動 <input type="checkbox"/> その他 ( )
単元名	デカルコマニーのミニ展覧会製作
単元・題材の目標	偶然の美しさを発見し、友だちどうして意見交換をする 自分たちの作品をミニギャラリーで展開する
単元全体の流れ	デカルコマニーの手法を使って作品を作る 出来上がった模様を友だちと鑑賞し合う (どのように見えるか、きれいポイントはどこか、上下替えるとどう見えるか等) 作品データをコラボノートで整理する 友だちの作品評価をする(コラボノートに付箋ではる) ミニギャラリーにする
本時の目標	自分の作品データをコラボノートで整理する 友だちの作品評価をする
本時の授業形態	本時の授業の場
<input checked="" type="checkbox"/> 一斉学習 <input type="checkbox"/> 協働学習 <input type="checkbox"/> 個別学習	<input checked="" type="checkbox"/> 児童生徒が1か所に集まって実施 <input type="checkbox"/> 校内の複数の教室等(同一敷地内)をネットワークで結んで実施 <input type="checkbox"/> 本校、分校、分教室(病院内の学級を含む)等をネットワークで結んで実施 <input type="checkbox"/> 本校等の教室と病院・施設等(病院内の学級を除く)をネットワークで結んで実施 <input type="checkbox"/> 本校等の教室と小・中学校、他の特別支援学校等をネットワークで結んで実施
本時の指導体制	<input checked="" type="checkbox"/> 担当教員1名のみ <input type="checkbox"/> 複数教員による指導 <input type="checkbox"/> ICT支援員によるサポート <input type="checkbox"/> 特別支援教育支援員等によるサポート(主として学習支援) <input type="checkbox"/> 特別支援教育支援員等によるサポート(主として介助等)

本時における情報通信技術の活用	
活用した機器	デジタルカメラ・タブレットPC
活用したコンテンツ	コラボノート
活用の目的	<input type="checkbox"/> 課題の提示や動機付け <input checked="" type="checkbox"/> まとめや振り返り <input checked="" type="checkbox"/> 児童生徒による発表や話し合い、教え合い <input type="checkbox"/> 教員による説明 <input type="checkbox"/> 観察・実験や調査の記録 <input checked="" type="checkbox"/> レポート、作品等の作成 <input type="checkbox"/> 繰り返しによる定着 <input type="checkbox"/> 直接経験の代行 <input type="checkbox"/> 意志の伝達

本時の展開		
学習の流れと児童生徒の活動	指導・支援のポイント	使用した機器・コンテンツ
自分の作品データをコラボノートで整理する (すでにデカルコマニーのビフォーアフターをデジタルカメラで記録) 自分が作品に込めた思いを書き込む 付箋を使い友だちの作品評価をする 友だちからの評価を受け自分作品をふりかえる	作業内容の明確化  生徒同士で教え合う場面の設定	タブレットPC コラボノート
協働学習の実施状況	<input checked="" type="checkbox"/> 児童生徒が教え合う場面があった <input checked="" type="checkbox"/> 児童生徒が話し合う場面があった <input checked="" type="checkbox"/> 児童生徒が協力したり助け合ったりする場面があった <input type="checkbox"/> 一人の発表を基に学級(学習集団)全体で考える場面があった <input type="checkbox"/> 同じ問題について学級(学習集団)全体で話し合う場面があった <input type="checkbox"/> ネットワークを活用して遠隔地と結んで学ぶ場面があった	

情報通信技術の活用のねらいと効果, 課題	
活用のねらい	評価・感想の交換 自分の作品のふりかえり
活用の効果	PC上で感想のやり取りができるため, 苦手意識が弱まる 自分の作品がよく見える
課題となる事項	画像データが大きいためPCTラブルが起きることがある

## 学びのイノベーション事業 授業実践報告 様式

学校名: 京都市立桃陽総合支援学校	
学級(学習集団)等の概要	
本時の学習集団等の特徴	<input checked="" type="checkbox"/> 通常の学習集団 <input type="checkbox"/> 通常とは異なる学習集団
	本時の学習集団の人数: 24 <input checked="" type="checkbox"/> 複数学年の児童生徒で構成 <input type="checkbox"/> 習熟度別の学習集団を構成 <input type="checkbox"/> 小・中学校等との交流及び協働学習(次の2項の場合を除く) <input type="checkbox"/> 児童生徒の前籍校との交流及び共同学習 <input type="checkbox"/> 他の特別支援学校との交流 <input type="checkbox"/> 分校、分教室(病院内の学級を含む)等、普段は異なる場で学習する児童生徒で構成 <input checked="" type="checkbox"/> ベッドサイドで学習する児童生徒と教室で学習する児童生徒で構成 <input type="checkbox"/> 病院内の学級の児童生徒のみで構成 <input type="checkbox"/> ベッドサイドで学習する児童生徒のみ <input type="checkbox"/> 発達障害のある児童生徒が含まれる <input type="checkbox"/> 知的障害のある児童生徒が含まれる <input type="checkbox"/> 肢体不自由のある児童生徒が含まれる

学級(学習集団)等の概要	
授業日時: 平成 25年 7月 16日 5, 6時限目	学年: 中学部 第 1, 2, 3学年
教科等	<input type="checkbox"/> 各教科 ( ) <input type="checkbox"/> 自立活動 <input checked="" type="checkbox"/> 総合的な学習の時間 <input type="checkbox"/> 特別活動 <input type="checkbox"/> その他 ( )
単元名	NEW文房具を開発しよう
単元・題材の目標	文房具の調査と分析を行い、グループでアイデアを出しながら役立つ「NEW文房具」を企画する。グループの提案をプレゼン・ポスターセッションなどで交流し合い、最終的にまとめた企画を聞く人にうまく伝える。
単元全体の流れ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各自で文房具を調べる。</li> <li>・外部講師から文具についての講義を受ける。</li> <li>・調べた文房具を、グループ内で分析する。</li> <li>・グループ毎に「NEW文房具」を考える。</li> <li>・グループ毎に考えた「NEW文房具」について発表する。</li> </ul>
本時の目標	グループ内で話し合い、「これはすごい文具」を一つ選ぶ。 発表プレゼンをつくり、発表する。
本時の授業形態	本時の授業の場
<input checked="" type="checkbox"/> 一斉学習 <input checked="" type="checkbox"/> 協働学習 <input checked="" type="checkbox"/> 個別学習	<input type="checkbox"/> 児童生徒が1か所に集まって実施 <input checked="" type="checkbox"/> 校内の複数の教室等(同一敷地内)をネットワークで結んで実施 <input type="checkbox"/> 本校、分校、分教室(病院内の学級を含む)等をネットワークで結んで実施 <input checked="" type="checkbox"/> 本校等の教室と病院・施設等(病院内の学級を除く)をネットワークで結んで実施 <input type="checkbox"/> 本校等の教室と小・中学校、他の特別支援学校等をネットワークで結んで実施
本時の指導体制	<input type="checkbox"/> 担当教員1名のみ <input checked="" type="checkbox"/> 複数教員による指導 <input checked="" type="checkbox"/> ICT支援員によるサポート <input type="checkbox"/> 特別支援教育支援員等によるサポート(主として学習支援)



情報通信技術の活用のねらいと効果、課題	
活用のねらい	TV会議システム・協働学習システムを活用することにより、本校の生徒と隣接病院内の生徒が協働的に学習できる環境を提供する。
活用の効果	TV会議システム・協働学習システムを活用することにより、病院から出ることのできない生徒が授業に参加することができ、意見交換を行った。
課題となる事項	隣接する病院から授業に参加する場合、通信状態が悪くなると音声などが聞き取りにくくなる。 発表場面では資料(協働学習システムで共有)を見ながらTV会議で発表の様子を見るので、病院内ではTPCを2台使用することになる。

## 学びのイノベーション事業 授業実践報告 様式

学校名： 京都市立桃陽総合支援学校	
学級(学習集団)等の概要	
本時の学習集団等の特徴	<input type="checkbox"/> 通常の学習集団 <input checked="" type="checkbox"/> 通常とは異なる学習集団
	本時の学習集団の人数： 4人 <input checked="" type="checkbox"/> 複数学年の児童生徒で構成 <input type="checkbox"/> 習熟度別の学習集団を構成 <input type="checkbox"/> 小・中学校等との交流及び協働学習(次の2項の場合を除く) <input type="checkbox"/> 児童生徒の前籍校との交流及び共同学習 <input type="checkbox"/> 他の特別支援学校との交流 <input checked="" type="checkbox"/> 分校、分教室(病院内の学級を含む)等、普段は異なる場で学習する児童生徒で構成 <input checked="" type="checkbox"/> ベッドサイドで学習する児童生徒と教室で学習する児童生徒で構成 <input type="checkbox"/> 病院内の学級の児童生徒のみで構成 <input type="checkbox"/> ベッドサイドで学習する児童生徒のみ <input checked="" type="checkbox"/> 発達障害のある児童生徒が含まれる <input type="checkbox"/> 知的障害のある児童生徒が含まれる <input type="checkbox"/> 肢体不自由のある児童生徒が含まれる

学級(学習集団)等の概要	
授業日時:平成 25年 5月 3日 2時限目	学年: 中学部 第1・2・3学年
教科等	<input type="checkbox"/> 各教科 ( ) <input type="checkbox"/> 自立活動 <input type="checkbox"/> 総合的な学習の時間 <input type="checkbox"/> 特別活動 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (憲法月間)
単元名	憲法月間の取り組み～憲法ってなんだろう～
単元・題材の目標	(1)「憲法」が誕生した歴史的経緯と存在意義について知ること。 (2)「憲法」が私たちの生活に関係していることを理解すること。
単元全体の流れ	(全て本時) ・「憲法」の歴史 ・「憲法」の役目 ・「憲法」と私たちの生活 ・日本国憲法
本時の目標	(1)憲法が誕生した歴史的経緯と存在意義について知る。 (2)憲法が私たちの生活を支えていることを知る。
本時の授業形態	本時の授業の場
<input checked="" type="checkbox"/> 一斉学習 <input checked="" type="checkbox"/> 協働学習 <input checked="" type="checkbox"/> 個別学習	<input type="checkbox"/> 児童生徒が1か所に集まって実施 <input type="checkbox"/> 校内の複数の教室等(同一敷地内)をネットワークで結んで実施 <input checked="" type="checkbox"/> 本校、分校、分教室(病院内の学級を含む)等をネットワークで結んで実施 <input type="checkbox"/> 本校等の教室と病院・施設等(病院内の学級を除く)をネットワークで結んで実施 <input type="checkbox"/> 本校等の教室と小・中学校、他の特別支援学校等をネットワークで結んで実施
本時の指導体制	<input type="checkbox"/> 担当教員1名のみ <input type="checkbox"/> 複数教員による指導 <input checked="" type="checkbox"/> ICT支援員によるサポート <input type="checkbox"/> 特別支援教育支援員等によるサポート(主として学習支援) <input type="checkbox"/> 特別支援教育支援員等によるサポート(主として介助等)



	<input checked="" type="checkbox"/> 一人の発表を基に学級(学習集団)全体で考える場面があった <input type="checkbox"/> 同じ問題について学級(学習集団)全体で話し合う場面があった <input type="checkbox"/> ネットワークを活用して遠隔地と結んで学ぶ場面があった
--	---

情報通信技術の活用のねらいと効果、課題	
活用のねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教室に行けないベッドサイドの子どもたちが授業に参加できる。</li> <li>・他学年の生徒と一緒に学習することができる。</li> <li>・異なる分教室にいる子どもたちが一緒に学習することができる。</li> </ul>
活用の効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなで一つの授業を受けることで、一体感を感じることができた。</li> <li>・病室から出られない子どもたちが、入院している他の子どもたちと接することができた。</li> </ul>
課題となる事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・機器の操作に不慣れな生徒には教員がつくか、事前の説明が必要。</li> <li>・テレビ会議を通して複数の生徒が話し合いを行うためには、発言する生徒を教師が指名する、全員が議論ができる簡潔な議題を与えるなどの工夫が必要。</li> <li>・授業者が授業しながら機器操作するのは難しいので、支援員が必要になる。</li> </ul>

## 学びのイノベーション事業 授業実践報告 様式

学校名: 京都市立桃陽総合支援学校	
学級(学習集団)等の概要	
本時の学習集団等の特徴	<input checked="" type="radio"/> 通常の学習集団 <input type="radio"/> 通常とは異なる学習集団
	本時の学習集団の人数: 6人 <input checked="" type="checkbox"/> 複数学年の児童生徒で構成 <input type="checkbox"/> 習熟度別の学習集団を構成 <input type="checkbox"/> 小・中学校等との交流及び協働学習(次の2項の場合を除く) <input type="checkbox"/> 児童生徒の前籍校との交流及び共同学習 <input type="checkbox"/> 他の特別支援学校との交流 <input type="checkbox"/> 分校、分教室(病院内の学級を含む)等、普段は異なる場で学習する児童生徒で構成 <input type="checkbox"/> ベッドサイドで学習する児童生徒と教室で学習する児童生徒で構成 <input checked="" type="checkbox"/> 病院内の学級の児童生徒のみで構成 <input type="checkbox"/> ベッドサイドで学習する児童生徒のみ <input checked="" type="checkbox"/> 発達障害のある児童生徒が含まれる <input type="checkbox"/> 知的障害のある児童生徒が含まれる <input type="checkbox"/> 肢体不自由のある児童生徒が含まれる

学級(学習集団)等の概要	
授業日時: 平成25年12月6日5時限目	学年: 小学部 第4・5学年・重複
教科等	<input checked="" type="checkbox"/> 各教科 (算数) <input type="checkbox"/> 自立活動 <input type="checkbox"/> 総合的な学習の時間 <input type="checkbox"/> 特別活動 <input type="checkbox"/> その他 ( )
単元名	4年「見積もりをつかって」 5年「見積もりをつかって」
単元・題材の目標	4年 (1) がい数の良さに気付き、まとめて見積もる方法について進んでかんがえようとする。 (2) まとめて見積もる方法について話し合い、分かりやすく発表する。 5年 (1) がい数の良さに気付き、差し引いて見積もる方法や切り上げ、切り捨てを使って見積もる方法について進んでかんがえようとする。 (2) 差し引いて見積もる方法や切り上げ、切り捨てを使って見積もる方法について話し合い、分かりやすく発表する。
単元全体の流れ	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">4年</div> 第1時 表や図から、およそ100のまとまりを作り、見積もる方法について話し合い、発表する。 第2時 いくつのまとまりを作れば良いか考え、まとまりを作り見積もる方法について話し合い、発表する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">5年</div> 第1時 差し引いて見積もる方法について話し合い、発表する。 第2時 切り上げや切り捨てを使って見積もる方法を考え、買えるかどうかを判断する方法について話し合い、発表する。 第3時 これまで学習した見積もり方を使って、10000円以内で買える商品を選び、なぜそのような選び方をしたか発表する。

本時の目標	4年 まとめて見積もる方法について自分の考えをまとめて、発表できる。 5年 これまで学習した見積もり方を適切に使って、見積もることができる。
本時の授業形態	本時の授業の場
<input checked="" type="checkbox"/> 一斉学習 <input checked="" type="checkbox"/> 協働学習 <input checked="" type="checkbox"/> 個別学習	<input checked="" type="checkbox"/> 児童生徒が1か所に集まって実施 <input type="checkbox"/> 校内の複数の教室等(同一敷地内)をネットワークで結んで実施 <input type="checkbox"/> 本校、分校、分教室(病院内の学級を含む)等をネットワークで結んで実施 <input type="checkbox"/> 本校等の教室と病院・施設等(病院内の学級を除く)をネットワークで結んで実施 <input type="checkbox"/> 本校等の教室と小・中学校、他の特別支援学校等をネットワークで結んで実施
本時の指導体制	<input checked="" type="checkbox"/> 担当教員1名のみ <input type="checkbox"/> 複数教員による指導 <input type="checkbox"/> ICT支援員によるサポート <input type="checkbox"/> 特別支援教育支援員等によるサポート(主として学習支援) <input type="checkbox"/> 特別支援教育支援員等によるサポート(主として介助等)

本時における情報通信技術の活用	
活用した機器	電子黒板 タブレットパソコン(TPC) プロジェクター
活用したコンテンツ	コラボノート
活用の目的	<input checked="" type="checkbox"/> 課題の提示や動機付け <input checked="" type="checkbox"/> まとめや振り返り <input checked="" type="checkbox"/> 児童生徒による発表や話し合い、教え合い <input checked="" type="checkbox"/> 教員による説明 <input type="checkbox"/> 観察・実験や調査の記録 <input type="checkbox"/> レポート、作品等の作成 <input type="checkbox"/> 繰り返しによる定着 <input type="checkbox"/> 直接経験の代行 <input type="checkbox"/> 意志の伝達

本時の展開		
学習の流れと児童生徒の活動	指導・支援のポイント	使用した機器・コンテンツ
<b>4年</b> ○前時の内容を振り返り、練習問題を する。  ○本時の課題を把握し、約何mのま とまりを作るのが良いか考える。  ○たして1000mになる2数の組み合 わせを考える。  ○約1000mのまとまりを考えること で、1周のおよその距離を求め、そ の方法の説明を協働学習支援システ ムに記入する。 ○5年生の発表を聞く。	<b>4年</b> ○前時のコラボノートのページを 見て、振り返る  ○たして1000にする問題を作成 しておき、児童同士で問題を出し 合えるようにする。  ○説明する文章が書きにくい児童 には、話型を提示する。	<b>4年</b> ○電子黒板 (デジタル教科書)  ○電子黒板 (プレゼンソフト)  ○タブレットパソコン (コラボノート)

<p>○まとめて見積もることで、1周のおよその距離を求める方法を発表する（5年生に向けても）。</p> <p>○適応題に取り組む。</p> <p><b>5年</b></p> <p>○本時の課題を把握する。</p> <p>○これまでどのような見積もり方があったか、確認する。</p> <p>○つばささんの計画で、10000円で購入するかどうか見積もる方法を書き、発表する。</p> <p>○協働学習支援システムを使って、値段を見積もりながら使いたい食材を選び、どのように見積もったのかを記入する。</p> <p>○どのように見積もったか理由を示しながら、どの食材を選んだか発表する（4年生に向けても）。</p> <p>○4年生の発表を聞く。</p> <p>○他の組み合わせを考える。</p>	<p>○発表する際には、コラボノートを用い、挿絵など視覚的に分かりやすいようにする。</p> <p><b>5年</b></p> <p>○前時までの協働学習支援システムのページを見て、振り返る。</p> <p>○理由を説明する文章が書きにくい児童には、話型を提示する。</p> <p>○発表する際には、協働学習支援システムを用い、挿絵など視覚的に分かりやすいようにする。</p>	<p>○電子黒板（コラボノート）</p> <p>○タブレットパソコン（コラボノート）</p> <p><b>5年</b></p> <p>○電子黒板（デジタル教科書）</p> <p>○電子黒板（プレゼンソフト）</p> <p>○タブレットパソコン（コラボノート）</p> <p>○電子黒板（コラボノート）</p> <p>○タブレットパソコン（コラボノート）</p> <p>○電子黒板（コラボノート）</p> <p>○タブレットパソコン（コラボノート）</p>
--	--	---

<p>協働学習の実施状況</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> 児童生徒が教え合う場面があった    <input checked="" type="checkbox"/> 児童生徒が話し合う場面があった</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 児童生徒が協力したり助け合ったりする場面があった</p> <p><input type="checkbox"/> 一人の発表を基に学級(学習集団)全体で考える場面があった</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 同じ問題について学級(学習集団)全体で話し合う場面があった</p> <p><input type="checkbox"/> ネットワークを活用して遠隔地と結んで学ぶ場面があった</p>
------------------	--

<p>情報通信技術の活用のねらいと効果、課題</p>	
<p>活用のねらい</p>	<p>字を書くことに困難さを抱えている児童もTPCを活用することで学習に参加しやすくすること。</p> <p>コラボノートに書きこむことで意見共有が容易になり、そのまま発表資料になること。</p>
<p>活用の効</p>	<p>字を書くことに困難さを抱えている児童も意欲的に学習することができた。</p>

果	書きこんだ内容を電子黒板に映しながら発表することができた。
課題となる事項	丁寧に入力しようとし、やや時間がかかる児童もいた。

## 学びのイノベーション事業 授業実践報告 様式

学校名： 京都市立桃陽総合支援学校	
学級(学習集団)等の概要	
本時の学習集団等の特徴	<input type="radio"/> 通常の学習集団 <input checked="" type="radio"/> 通常とは異なる学習集団
	本時の学習集団の人数： 10人 <input checked="" type="checkbox"/> 複数学年の児童生徒で構成 <input type="checkbox"/> 習熟度別の学習集団を構成 <input type="checkbox"/> 小・中学校等との交流及び協働学習(次の2項の場合を除く) <input type="checkbox"/> 児童生徒の前籍校との交流及び共同学習 <input type="checkbox"/> 他の特別支援学校との交流 <input checked="" type="checkbox"/> 分校、分教室(病院内の学級を含む)等、普段は異なる場で学習する児童生徒で構成 <input type="checkbox"/> ベッドサイドで学習する児童生徒と教室で学習する児童生徒で構成 <input type="checkbox"/> 病院内の学級の児童生徒のみで構成 <input type="checkbox"/> ベッドサイドで学習する児童生徒のみ <input checked="" type="checkbox"/> 発達障害のある児童生徒が含まれる <input type="checkbox"/> 知的障害のある児童生徒が含まれる <input type="checkbox"/> 肢体不自由のある児童生徒が含まれる

学級(学習集団)等の概要	
授業日時：平成25年12月6日4時限目	学年： 小学部 第4・5学年・重複
教科等	<input checked="" type="checkbox"/> 各教科 (理科) <input type="checkbox"/> 自立活動 <input type="checkbox"/> 総合的な学習の時間 <input type="checkbox"/> 特別活動 <input type="checkbox"/> その他 ( )
単元名	ひっつき虫のしくみ
単元・題材の目標	(1)ひっつき虫のしくみを考えながら観察する。 (2)グループの中で、進んで自分の意見を言う。 (3)ひっつき虫のしくみを、その種子の分布拡大と関連づけながら考える。
単元全体の流れ	第1時 オナモミのひっつき虫のしくみを予想し、リモート顕微鏡で観察する。 第2時 前時の学習をもとに、ヌスビトハギとイノコズチのひっつき虫のしくみについてグループで予想し、リモート顕微鏡で観察する。 身の回りにひっつき虫のしくみが使われていることを知る。 第3時 ひっつき虫がひっつく理由を、植物の種子の分布拡大と関連付けながら考える。
本時の目標	(1)テレビ会議システムを通して、グループで話し合いをする。 (2)リモート顕微鏡を通して、観察する。 (3)ひっつき虫の様々なひっつき虫のしくみを知る。
本時の授業形態	本時の授業の場
<input checked="" type="checkbox"/> 一斉学習 <input checked="" type="checkbox"/> 協働学習 <input checked="" type="checkbox"/> 個別学習	<input type="checkbox"/> 児童生徒が1か所に集まって実施 <input type="checkbox"/> 校内の複数の教室等(同一敷地内)をネットワークで結んで実施 <input checked="" type="checkbox"/> 本校、分校、分教室(病院内の学級を含む)等をネットワークで結んで実施 <input checked="" type="checkbox"/> 本校等の教室と病院・施設等(病院内の学級を除く)をネットワークで結んで実施 <input type="checkbox"/> 本校等の教室と小・中学校、他の特別支援学校等をネットワークで結んで実施
本時の指導体制	<input type="checkbox"/> 担当教員1名のみ <input checked="" type="checkbox"/> 複数教員による指導

	<input checked="" type="checkbox"/> ICT支援員によるサポート <input type="checkbox"/> 特別支援教育支援員等によるサポート(主として学習支援) <input type="checkbox"/> 特別支援教育支援員等によるサポート(主として介助等)
--	--

本時における情報通信技術の活用	
活用した機器	・IWB ・TPC ・TV 会議システム ・ウェブカメラ ・リモートカメラ ・リモート顕微鏡
活用したコンテンツ	自作コンテンツ
活用の目的	<input checked="" type="checkbox"/> 課題の提示や動機付け <input checked="" type="checkbox"/> 児童生徒による発表や話し合い、教え合い <input checked="" type="checkbox"/> 観察・実験や調査の記録 <input type="checkbox"/> 繰り返しによる定着 <input type="checkbox"/> 直接経験の代行 <input checked="" type="checkbox"/> 意志の伝達 <input checked="" type="checkbox"/> まとめや振り返り <input checked="" type="checkbox"/> 教員による説明 <input type="checkbox"/> レポート、作品等の作成

本時の展開		
学習の流れと児童生徒の活動	指導・支援のポイント	使用した機器・コンテンツ
<b>一斉学習</b> ①前回の授業をふりかえる。 ②本時の課題を把握する。	・ウェブカメラを使って2種類のひつつき虫を知らせる。	テレビ会議(時間を通して) リモートカメラ(時間を通して) テレビ会議(指導者)
<b>協働学習→一斉学習</b> ③グループでヌスビトハギとイノコヅチのひつつくしゅみを予想して発表する。	・ウェブカメラでそれぞれのひつつき虫の特徴に気づくようにする。 ・テレビ会議システムを使って、分教室の児童と本校の児童で話し合う。	テレビ会議(児童) ウェブカメラ(児童)
<b>個別学習</b> ④顕微鏡で観察する。	・分教室の児童がリモート顕微鏡を操作観察できるようにする。	リモート顕微鏡(児童)
<b>一斉学習</b> ⑤気付いたことを発表する。	・リモート顕微鏡の映像を電子黒板に映す。	リモート顕微鏡(児童)

⑥まとめの話を聞く。 ⑦マジックテープのひつつくみ について知る。		自作コンテンツ(指導者)
協働 学 習 の 実 施 状 況	<input checked="" type="checkbox"/> 児童生徒が教え合う場面があった <input checked="" type="checkbox"/> 児童生徒が話し合う場面があった <input checked="" type="checkbox"/> 児童生徒が協力したり助け合ったりする場面があった <input checked="" type="checkbox"/> 一人の発表を基に学級(学習集団)全体で考える場面があった <input checked="" type="checkbox"/> 同じ問題について学級(学習集団)全体で話し合う場面があった <input checked="" type="checkbox"/> ネットワークを活用して遠隔地と結んで学ぶ場面があった	

情報通信技術の活用のねらいと効果、課題	
活用のねらい	コラボノートを活用し、班ごとの話し合いを深める。 TV会議システムを活用し、本校と分教室の生徒が協働して活動する。 リモート顕微鏡を活用し、分教室から遠隔操作しながら植物を観察する。 リモート顕微鏡での映像を、IWB を活用して全体で共有する。
活用の効果	毎授業後のふりかえりをコラボノートで行うことにより、全体で感想を共有できる。 教室内で、本校・分教室合同で複数班を形成することができる。 分教室なくても無線 LAN が導入されていることで、同じ教室内であってもそれぞれの班活動を行うことができる。 班活動を活発に行うことができる。 分教室・病室からも、顕微鏡を使った観察を行うことができる。
課題となる事項	同教室内で複数の会議室を使うことで、音声伝わりにくい状態になった。 指導者で素早く対応できるようスキルアップが必要。

## 学びのイノベーション事業 授業実践報告 様式

学校名： 京都市立桃陽総合支援学校		
学級(学習集団)等の概要		
本時の学習集団等の特徴	<input type="radio"/> 通常の学習集団 <input checked="" type="radio"/> 通常とは異なる学習集団	本時の学習集団の人数： 1名
	<input type="checkbox"/> 複数学年の児童生徒で構成 <input type="checkbox"/> 習熟度別の学習集団を構成 <input type="checkbox"/> 小・中学校等との交流及び協働学習(次の2項の場合を除く) <input type="checkbox"/> 児童生徒の前籍校との交流及び共同学習 <input type="checkbox"/> 他の特別支援学校との交流 <input checked="" type="checkbox"/> 分校、分教室(病院内の学級を含む)等、普段は異なる場で学習する児童生徒で構成 <input type="checkbox"/> ベッドサイドで学習する児童生徒と教室で学習する児童生徒で構成 <input checked="" type="checkbox"/> 病院内の学級の児童生徒のみで構成 <input checked="" type="checkbox"/> ベッドサイドで学習する児童生徒のみ <input type="checkbox"/> 発達障害のある児童生徒が含まれる <input type="checkbox"/> 知的障害のある児童生徒が含まれる <input type="checkbox"/> 肢体不自由のある児童生徒が含まれる	

学級(学習集団)等の概要	
授業日時:平成 25 年 5 月 28 日 3 時限目	学年:小学部 第 5 学年
教科等	<input checked="" type="checkbox"/> 各教科 (理科) <input type="checkbox"/> 自立活動 <input type="checkbox"/> 総合的な学習の時間 <input type="checkbox"/> 特別活動 <input type="checkbox"/> その他 ( )
単元名	こん虫をそだてよう
単元・題材の目標	リモートカメラを使用し、カブトムシの成長の過程や体のつくりを調べ、昆虫の成長のきまりや体のつくりについての考えをもつことができるようにする。
単元全体の流れ	第 1 時：カブトムシについて知っていることを話し、観察に向けての意欲をもつ。 第 2 時：リモートカメラでの観察方法を知り、幼虫の様子を観察する。 第 3 時：カブトムシの幼虫の育ち方を観察する。 第 4 時：さなぎの様子を観察する。 第 5 時：観察カードを整理し、カブトムシの育ち方についてまとめる。 第 6 時：成虫の体のつくりを調べる。 第 7 時：チョウやトンボ、バッタの体のつくりや育ち方について、ビデオ教材を視聴し、それらの共通点や相違点を考える。 第 8 時：これまでの学習を振り返り、単元のまとめをする。
本時の目標	リモートカメラを使ってカブトムシのさなぎのつくりや育ち方を観察し、記録する。
本時の授業形態	本時の授業の場
<input type="checkbox"/> 一斉学習 <input type="checkbox"/> 協働学習 <input checked="" type="checkbox"/> 個別学習	<input type="checkbox"/> 児童生徒が1か所に集まって実施 <input type="checkbox"/> 校内の複数の教室等(同一敷地内)をネットワークで結んで実施 <input checked="" type="checkbox"/> 本校、分校、分教室(病院内の学級を含む)等をネットワークで結んで実施



	察することで、主体的に取り組み、教材についての関心・意欲を高めることを目標にした。
活用の効果	授業時間外でも操作できるようにしたことで、時間・曜日を問わず、観察を進めることができた。主体的な活動となったことで、カブトムシのさなぎのつくりや育ち方が、実感を伴って理解することができた。病室での対面学習のみでは味わえなかった体験が味わえ、カブトムシに愛着を持って観察できたことは、活用の大きな効果であった。
課題となる事項	今後、カメラの解像度や操作性が向上して視覚的な観察については進歩していくことが予想されるが、臭いや触感を味わうことは難しい。状況にもよるが、直接経験の代行者（児童または教職員）とのやり取りを通して、自分の知りたいことを間接的に体験することができれば、理科の観察におけるICT機器の有効性は更に高まるのではないかと考える。そのあたりの体制がとれるような計画や場の設定を進めていくことが課題である。

## 学びのイノベーション事業 授業実践報告 様式

学校名: 京都市立桃陽総合支援学校		
学級(学習集団)等の概要		
本時の学習集団等の特徴	<input type="radio"/> 通常の学習集団 <input checked="" type="radio"/> 通常とは異なる学習集団	本時の学習集団の人数: 本校児童9名, 分教室児童1名 計10名
	<input type="checkbox"/> 複数学年の児童生徒で構成 <input type="checkbox"/> 習熟度別の学習集団を構成 <input type="checkbox"/> 小・中学校等との交流及び協働学習(次の2項の場合を除く) <input type="checkbox"/> 児童生徒の前籍校との交流及び共同学習 <input type="checkbox"/> 他の特別支援学校との交流 <input checked="" type="checkbox"/> 分校、分教室(病院内の学級を含む)等、普段は異なる場で学習する児童生徒で構成 <input type="checkbox"/> ベッドサイドで学習する児童生徒と教室で学習する児童生徒で構成 <input type="checkbox"/> 病院内の学級の児童生徒のみで構成 <input type="checkbox"/> ベッドサイドで学習する児童生徒のみ <input checked="" type="checkbox"/> 発達障害のある児童生徒が含まれる <input type="checkbox"/> 知的障害のある児童生徒が含まれる <input type="checkbox"/> 肢体不自由のある児童生徒が含まれる	

学級(学習集団)等の概要	
授業日時: 平成 25年 7月10日 2時限目	学年: 小学部 第 6学年
教科等	<input checked="" type="checkbox"/> 各教科 (国語) <input type="checkbox"/> 自立活動 <input type="checkbox"/> 総合的な学習の時間 <input type="checkbox"/> 特別活動 <input type="checkbox"/> その他 ( )
単元名	相手の意図を聞き取り, 自分の主張を伝えよう「学級討論会をしよう 伝えにくいことを伝える」
単元・題材の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・討論会の話題に沿って, 話し手の意図をとらえながら聞き, 自分の意見と比べるなどして考えをまとめることができるようにする。</li> <li>・互いの立場や意図をはっきりさせながら, 計画的に話し合いができるようにする。</li> </ul>
単元全体の流れ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今までの討論の経験を振り返り, 討論会の意義や役割, 進め方を理解する。</li> <li>・討論会の意義を理解し, 討論会の話題を決めて準備する。</li> <li>・討論会に向けて練習する。</li> <li>・肯定グループ・否定グループにわかれて, 学級討論会をする。</li> <li>・「伝えにくいことを伝える」を読み, 感じたことを話し合う。</li> </ul>
本時の目標	肯定グループ・否定グループにわかれて, 学級討論会をする。
本時の授業形態	本校(6年教室), 分教室
<input checked="" type="checkbox"/> 一斉学習 <input checked="" type="checkbox"/> 協働学習 <input type="checkbox"/> 個別学習	<input type="checkbox"/> 児童生徒が1か所に集まって実施 <input type="checkbox"/> 校内の複数の教室等(同一敷地内)をネットワークで結んで実施 <input type="checkbox"/> 本校、分校、分教室(病院内の学級を含む)等をネットワークで結んで実施 <input type="checkbox"/> 本校等の教室と病院・施設等(病院内の学級を除く)をネットワークで結んで実施 <input type="checkbox"/> 本校等の教室と小・中学校、他の特別支援学校等をネットワークで結んで実施
本時の指導体制	<input type="checkbox"/> 担当教員1名のみ <input checked="" type="checkbox"/> 複数教員による指導 <input type="checkbox"/> ICT支援員によるサポート <input type="checkbox"/> 特別支援教育支援員等によるサポート(主として学習支援) <input checked="" type="checkbox"/> 特別支援教育支援員等によるサポート(主として介助等)

本時における情報通信技術の活用	
活用した機器	IWB(電子黒板), ノートPC, タブレットPC, Webカメラ, デジタルカメラ
活用したコンテンツ	デジタル教科書, コラボノート
活用の目的	<input checked="" type="checkbox"/> 課題の提示や動機付け <input checked="" type="checkbox"/> まとめや振り返り <input checked="" type="checkbox"/> 児童生徒による発表や話し合い、教え合い <input type="checkbox"/> 教員による説明 <input type="checkbox"/> 観察・実験や調査の記録 <input type="checkbox"/> レポート、作品等の作成 <input checked="" type="checkbox"/> 繰り返しによる定着 <input type="checkbox"/> 直接経験の代行 <input type="checkbox"/> 意志の伝達

本時の展開		
学習の流れと児童生徒の活動	指導・支援のポイント	使用した機器・コンテンツ
<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時のめあてを提示する。</li> <li>「肯定グループ・否定グループにわかれて、学級討論会をしよう」</li> <li>・それぞれの立場(否定か肯定か)と、役割(司会・記録・まとめなど)を確認する(コラボノートに自分の役割や立場、主張をまとめる)。</li> <li>・分教室児童はテレビ会議システム、コラボノートで参加する。</li> <li>・議題に沿って討論を進めていく。</li> <li>・大事だと思ったことはコラボノートにメモする。</li> <li>・討議のまとめをする。</li> <li>・授業の感想を発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時までの学習を踏まえ、討論の進め方を掲示しておく。</li> <li>・討論の様子を、ビデオに記録し、相互評価に生かせるようにする。</li> <li>・グループで約束を決めるなどして、できるだけ多くの児童が、主張や質問の経験ができるよう配慮する。</li> <li>・分教室児童に発言の際は合図をするように声をかける。</li> <li>・分教室児童にもわかりやすいように、ゆっくり話すように声をかける。</li> </ul>	IWB(電子黒板), ノートPC, タブレットPC, Webカメラ, デジタル教科書, コラボノート, テレビ会議システム, デジタルカメラ

協働学習の実施状況	<input checked="" type="checkbox"/> 児童生徒が教え合う場面があった	<input checked="" type="checkbox"/> 児童生徒が話し合う場面があった
	<input checked="" type="checkbox"/> 児童生徒が協力したり助け合ったりする場面があった	
	<input checked="" type="checkbox"/> 一人の発表を基に学級(学習集団)全体で考える場面があった	
	<input checked="" type="checkbox"/> 同じ問題について学級(学習集団)全体で話し合う場面があった	
	<input checked="" type="checkbox"/> ネットワークを活用して遠隔地と結んで学ぶ場面があった	

情報通信技術の活用のねらいと効果, 課題	
活用のねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の記録(まとめ), 自分のノートとしての活用</li> <li>・分教室児童との交流</li> <li>・学習意欲の向上</li> </ul>
活用の効果	<p>(分教室児童)入院生活や治療のストレスで, 人前に出ることを拒んでいたが, コラボノートでの交流を進めていく中で, 本校児童に向けて自分の気持ちや思いを書きこめるようになり, 「もっと, いっしょに学習したい」, 「討論会に参加したい」という向上心や学習意欲の高まりがみられた。</p> <p>(本校児童)読み書きが苦手な児童が, ノート作りに意欲的になった(コラボノートのページに工夫がみられた)。学習に意欲をもちにくい児童が, グループ活動を通して, 自分の役割を明確にすることで(コラボノートに分かりやすく提示した), 目標を立てて授業に向かえるようになった。コラボノートでの交流を進める中で, 「分教室の友だちともっとなかよくなりたい」「テレビ会議で交流したい」と, 分教室児童との交流に積極的になった。</p>
課題となる事項	テレビ会議システムの通信トラブル

## 学びのイノベーション事業 授業実践報告 様式

学校名： 京都市立桃陽総合支援学校	
学級(学習集団)等の概要	
本時の学習集団等の特徴	<input checked="" type="radio"/> 通常の学習集団 <input type="radio"/> 通常とは異なる学習集団
	本時の学習集団の人数： 11人 <input type="checkbox"/> 複数学年の児童生徒で構成 <input type="checkbox"/> 習熟度別の学習集団を構成 <input type="checkbox"/> 小・中学校等との交流及び協働学習(次の2項の場合を除く) <input type="checkbox"/> 児童生徒の前籍校との交流及び共同学習 <input type="checkbox"/> 他の特別支援学校との交流 <input type="checkbox"/> 分校、分教室(病院内の学級を含む)等、普段は異なる場で学習する児童生徒で構成 <input type="checkbox"/> ベッドサイドで学習する児童生徒と教室で学習する児童生徒で構成 <input type="checkbox"/> 病院内の学級の児童生徒のみで構成 <input type="checkbox"/> ベッドサイドで学習する児童生徒のみ <input checked="" type="checkbox"/> 発達障害のある児童生徒が含まれる <input type="checkbox"/> 知的障害のある児童生徒が含まれる <input type="checkbox"/> 肢体不自由のある児童生徒が含まれる

学級(学習集団)等の概要	
授業日時:平成25年 12月 6日 4時限目	学年: 小学部 第6学年
教科等	<input checked="" type="checkbox"/> 各教科 (社会科) <input type="checkbox"/> 自立活動 <input type="checkbox"/> 総合的な学習の時間 <input type="checkbox"/> 特別活動 <input type="checkbox"/> その他 ( )
単元名	「新しい日本, 平和な日本へ」
単元・題材の目標	日本国憲法の制定, オリンピックの開催などについて聞き取り調査をしたり資料を活用したりして調べ, 戦後我が国は民主的な国家として出発し, 国民生活が向上し国際社会の中で重要な役割を果たしてきたことについて考え, 表現する。
単元全体の流れ	(第1時)「戦争のない世の中を目指して」 同じ場所を撮影した3枚の写真を見て気付いたことや思ったことを話し合う。 (第2時)「民主主義による国をめざして」 戦後, どのような改革が行われたのかについて調べる。 (第3時)「再び世界の中へ」 戦後の日本と諸外国との関係について調べる。 (第4時)「高度経済成長のなかのオリンピック」 高度経済成長のなかで, 日本がどのように発展していったのか調べる。 (第5時)「これからの日本を考えよう」(本時) 残された問題を調べ, これからの日本のあるべき姿を話し合う。 (第6時)「学習のまとめ 上巻をふり返って」 学習問題について話し合い, 歴史学習を通しての思いを作文にまとめよう。
本時の目標	現在の日本に残る解決すべき課題やこれからの日本の果たす役割について考え, 適切に表現する。
本時の授業形態	小学部 6年生教室
<input type="checkbox"/> 一斉学習 <input checked="" type="checkbox"/> 協働学習	<input checked="" type="checkbox"/> 児童生徒が1か所に集まって実施 <input type="checkbox"/> 校内の複数の教室等(同一敷地内)をネットワークで結んで実施

<input type="checkbox"/> 個別学習	<input type="checkbox"/> 本校、分校、分教室(病院内の学級を含む)等をネットワークで結んで実施 <input type="checkbox"/> 本校等の教室と病院・施設等(病院内の学級を除く)をネットワークで結んで実施 <input type="checkbox"/> 本校等の教室と小・中学校、他の特別支援学校等をネットワークで結んで実施
本時の指導体制	<input checked="" type="checkbox"/> 担当教員1名のみ <input type="checkbox"/> 複数教員による指導 <input type="checkbox"/> ICT支援員によるサポート <input type="checkbox"/> 特別支援教育支援員等によるサポート(主として学習支援) <input type="checkbox"/> 特別支援教育支援員等によるサポート(主として介助等)

本時における情報通信技術の活用	
活用した機器	・ IWB, TPC, 教材提示装置, デジタルカメラ
活用したコンテンツ	・デジタル教科書, コラボノート, 歴史デジタル教材
活用の目的	<input type="checkbox"/> 課題の提示や動機付け <input type="checkbox"/> まとめや振り返り <input checked="" type="checkbox"/> 児童生徒による発表や話し合い、教え合い <input type="checkbox"/> 教員による説明 <input checked="" type="checkbox"/> 観察・実験や調査の記録 <input type="checkbox"/> レポート、作品等の作成 <input type="checkbox"/> 繰り返しによる定着 <input type="checkbox"/> 直接経験の代行 <input type="checkbox"/> 意志の伝達

本時の展開		
学習の流れと児童生徒の活動	指導・支援のポイント	使用した機器・コンテンツ
<p><b>一斉学習</b> ○本時のめあてを確認する。</p> <p>残された問題を調べ、これからの日本のあるべき姿を話し合おう。</p>	<p>【IWBでデジタル教科書と前時までのコラボノートを提示する】</p>	<p>IWB (指導者)</p>
<p><b>個別学習</b> ○現在の日本にはどのような課題や問題があるのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お年寄り・障害のある人たち・子ども女性の権利</li> <li>・差別をなくす問題</li> <li>・アイヌ民族, 在日韓国・朝鮮人, 外国人やハンセン病などの病気にかかった人たちへの偏見・差別</li> <li>・公害, 食糧自給率の低下, 経済不況, 戦争と平和などの問題</li> </ul>	<p>【P148の例をもとに, 様々な問題が残されていることをデジタル教科書で確認する。】</p> <p>・現代社会にはさまざまな人権問題があることをとらえ, 歴史学習を人権の視点で振り返る。</p>	<p>TPC (児童)</p> <p>コラボノート</p>
<p><b>協働学習</b> ○現在の日本に残る課題や問題を踏まえ, 日本はどのような国になるべきか話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・少人数グループで話し合う。</li> </ul> <p>○話し合ったことを発表する。</p>	<p>【グループでお互いのコラボノートの書き込みを確認しながら, 話し合いを進める】</p>	<p>TPC (児童)</p>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ずっと平和で豊かでいたい。</li> <li>・まわりの国々と仲良くしていきたい。</li> <li>・一部の人だけじゃなくて、みんなが笑顔でいられる国にしたい。</li> </ul>	<p>【IWBでコラボノートを提示する】</p>	<p>IWB (指導者) (児童)</p>
<p>協働学習の実施状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="checkbox"/> 児童生徒が教え合う場面があった    <input checked="" type="checkbox"/> 児童生徒が話し合う場面があった</li> <li><input type="checkbox"/> 児童生徒が協力したり助け合ったりする場面があった</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 一人の発表を基に学級(学習集団)全体で考える場面があった</li> <li><input type="checkbox"/> 同じ問題について学級(学習集団)全体で話し合う場面があった</li> <li><input type="checkbox"/> ネットワークを活用して遠隔地と結んで学ぶ場面があった</li> </ul>	

情報通信技術の活用のねらいと効果、課題	
活用のねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童〔個別学習 ・協働学習 〕</li> <li>・指導者〔・コンテンツ提示 ・資料提示〕</li> </ul>
活用の効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教材の提示(視覚的支援)</li> <li>・話し合い場面での資料提示,「伝えたい」意欲の向上</li> </ul>
課題となる事項	

## 学びのイノベーション事業 授業実践報告 様式

学校名： 京都市立桃陽総合支援学校		
学級(学習集団)等の概要		
本時の学習集団等の特徴	<input type="radio"/> 通常の学習集団 <input checked="" type="radio"/> 通常とは異なる学習集団	本時の学習集団の人数： 本校児童18人，分教室児童10名，計28名
	<input checked="" type="checkbox"/> 複数学年の児童生徒で構成 <input type="checkbox"/> 習熟度別の学習集団を構成 <input type="checkbox"/> 小・中学校等との交流及び協働学習(次の2項の場合を除く) <input type="checkbox"/> 児童生徒の前籍校との交流及び共同学習 <input type="checkbox"/> 他の特別支援学校との交流 <input checked="" type="checkbox"/> 分校、分教室(病院内の学級を含む)等、普段は異なる場で学習する児童生徒で構成 <input type="checkbox"/> ベッドサイドで学習する児童生徒と教室で学習する児童生徒で構成 <input type="checkbox"/> 病院内の学級の児童生徒のみで構成 <input type="checkbox"/> ベッドサイドで学習する児童生徒のみ <input checked="" type="checkbox"/> 発達障害のある児童生徒が含まれる <input type="checkbox"/> 知的障害のある児童生徒が含まれる <input type="checkbox"/> 肢体不自由のある児童生徒が含まれる	

学級(学習集団)等の概要	
授業日時：平成25年10月10日 2時限目	学年：小学部 第1学年～第6学年
教科等	<input type="checkbox"/> 各教科 ( ) <input type="checkbox"/> 自立活動 <input type="checkbox"/> 総合的な学習の時間 <input checked="" type="checkbox"/> 特別活動 <input type="checkbox"/> その他 ( )
単元名	学習発表会で一緒に「英語劇・群読」をしよう
単元・題材の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校，分教室児童が交流を深め合いながら，学習発表会(英語劇・群読)に向けて取り組んでいく。</li> <li>・児童一人ひとりが，自分の役割を果たし，学習の成果を学習発表会で披露する。</li> </ul>
単元全体の流れ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校，分教室，それぞれで学習発表会(英語劇・群読)の練習をする。</li> <li>・コラボノートで，お互いの練習の進捗状況や意見や感想を交流する。</li> <li>・テレビ会議システムやリモート・コンサートホールで，合同練習をする。</li> <li>・学習発表会で学習の成果を披露する。</li> </ul>
本時の目標	・学習発表会に向けて，お互いに交流を深め合いながら練習に取り組む。
本時の授業形態	本時の授業の場
<input type="checkbox"/> 一斉学習 <input checked="" type="checkbox"/> 協働学習 <input type="checkbox"/> 個別学習	<input type="checkbox"/> 児童生徒が1か所に集まって実施 <input type="checkbox"/> 校内の複数の教室等(同一敷地内)をネットワークで結んで実施 <input checked="" type="checkbox"/> 本校、分校、分教室(病院内の学級を含む)等をネットワークで結んで実施 <input type="checkbox"/> 本校等の教室と病院・施設等(病院内の学級を除く)をネットワークで結んで実施 <input type="checkbox"/> 本校等の教室と小・中学校、他の特別支援学校等をネットワークで結んで実施
本時の指導体制	<input type="checkbox"/> 担当教員1名のみ <input checked="" type="checkbox"/> 複数教員による指導 <input type="checkbox"/> ICT支援員によるサポート <input type="checkbox"/> 特別支援教育支援員等によるサポート(主として学習支援) <input type="checkbox"/> 特別支援教育支援員等によるサポート(主として介助等)



協働学習の実施状況	<input checked="" type="checkbox"/> 児童生徒が教え合う場面があった	<input type="checkbox"/> 児童生徒が話し合う場面があった
	<input checked="" type="checkbox"/> 児童生徒が協力したり助け合ったりする場面があった	
	<input type="checkbox"/> 一人の発表を基に学級(学習集団)全体で考える場面があった	
	<input checked="" type="checkbox"/> 同じ問題について学級(学習集団)全体で話し合う場面があった	
	<input checked="" type="checkbox"/> ネットワークを活用して遠隔地と結んで学ぶ場面があった	

情報通信技術の活用のねらいと効果、課題	
活用のねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校児童, 分教室児童の積極的な交流。</li> <li>・教材の共有。</li> <li>・合同学習発表会に向けて意欲を高める。</li> <li>・学習の経過を記録する。</li> </ul>
活用の効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校児童, 分教室児童が, 他の授業においても積極的に交流ができるようになった。</li> <li>・合同学習発表会に向けて意欲が高まった。</li> <li>・授業の進捗状況などを, わかりやすく提示することができた。</li> </ul>
課題となる事項	テレビ会議システム, リモート・コンサートホールの通信トラブル

## 学びのイノベーション事業 授業実践報告 様式

学校名： 京都市立桃陽総合支援学校	
学級(学習集団)等の概要	
本時の学習集団等の特徴	<input checked="" type="radio"/> 通常の学習集団 <input type="radio"/> 通常とは異なる学習集団
	本時の学習集団の人数： 7人 <input type="checkbox"/> 複数学年の児童生徒で構成 <input type="checkbox"/> 習熟度別の学習集団を構成 <input type="checkbox"/> 小・中学校等との交流及び協働学習(次の2項の場合を除く) <input type="checkbox"/> 児童生徒の前籍校との交流及び共同学習 <input type="checkbox"/> 他の特別支援学校との交流 <input type="checkbox"/> 分校、分教室(病院内の学級を含む)等、普段は異なる場で学習する児童生徒で構成 <input type="checkbox"/> ベッドサイドで学習する児童生徒と教室で学習する児童生徒で構成 <input type="checkbox"/> 病院内の学級の児童生徒のみで構成 <input type="checkbox"/> ベッドサイドで学習する児童生徒のみ <input checked="" type="checkbox"/> 発達障害のある児童生徒が含まれる <input type="checkbox"/> 知的障害のある児童生徒が含まれる <input type="checkbox"/> 肢体不自由のある児童生徒が含まれる

学級(学習集団)等の概要	
授業日時：平成 25 年 12 月 6 日 3 時限目	学年： 中学部 第1学年
教科等	<input type="checkbox"/> 各教科 ( ) <input checked="" type="checkbox"/> 自立活動 <input type="checkbox"/> 総合的な学習の時間 <input type="checkbox"/> 特別活動 <input type="checkbox"/> その他 ( )
単元名	コミュニケーションスキルの形成「上手に聞く」ー話し手が話しやすい聞き方ー
単元・題材の目標	(1) 聞き手の聞く姿勢が話し手に与える影響を知る。自分の聞く態度を考える。 (2) 話し手が話しやすい聞き方の体験を通して、聞くスキルの向上につなげる。
単元全体の流れ	第1時 話を聞くときの態度が、いかに他の人に影響を与えるかを知る。 第2時 「話し手が話しやすい聞き方」の3つの重要なポイントを知り、聞き上手の練習をする。(本時2/2)
本時の目標	(1) 話し手が話しやすい聞き方のポイントを知る。 (2) ポイントを意識して聞く体験をし、聞くスキルを身につける。
本時の授業形態	本時の授業の場
<input checked="" type="checkbox"/> 一斉学習 <input checked="" type="checkbox"/> 協働学習 <input type="checkbox"/> 個別学習	<input checked="" type="checkbox"/> 児童生徒が1か所に集まって実施 <input type="checkbox"/> 校内の複数の教室等(同一敷地内)をネットワークで結んで実施 <input type="checkbox"/> 本校、分校、分教室(病院内の学級を含む)等をネットワークで結んで実施 <input type="checkbox"/> 本校等の教室と病院・施設等(病院内の学級を除く)をネットワークで結んで実施 <input type="checkbox"/> 本校等の教室と小・中学校、他の特別支援学校等をネットワークで結んで実施
本時の指導体制	<input checked="" type="checkbox"/> 担当教員1名のみ <input type="checkbox"/> 複数教員による指導 <input type="checkbox"/> ICT支援員によるサポート <input type="checkbox"/> 特別支援教育支援員等によるサポート(主として学習支援) <input type="checkbox"/> 特別支援教育支援員等によるサポート(主として介助等)

本時における情報通信技術の活用	
活用した機器	・ IWB ・ TPC ・ TV会議システム
活用したコンテンツ	・ コラボノート ・ 自作コンテンツ
活用の目的	<input checked="" type="checkbox"/> 課題の提示や動機付け <input type="checkbox"/> まとめや振り返り <input checked="" type="checkbox"/> 児童生徒による発表や話し合い、教え合い <input checked="" type="checkbox"/> 教員による説明 <input type="checkbox"/> 観察・実験や調査の記録 <input type="checkbox"/> レポート、作品等の作成 <input type="checkbox"/> 繰り返しによる定着 <input type="checkbox"/> 直接経験の代行 <input type="checkbox"/> 意志の伝達

本時の展開		
学習の流れと児童生徒の活動	指導・支援のポイント	使用した機器 コンテンツ
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">一斉学習</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本時のねらいを知る。</li> <li>・ 前時に行った，人が「聞いていない」ときの言語的，非言語的行動を確認する。</li> <li>・ 「話し手が話しやすい聞き方」のロールプレイをし，動作や態度を観察する。音声のみと，映像つきを1回ずつ視聴する。</li> <li>・ 話し手が話しやすい聞き方の動作や態度を確認する。</li> <li>・ 聞き上手になるための3つのポイントを</li> </ul>	<p>本時のねらい『「話し手が話しやすい聞き方」のスキルを学び，練習する。』            前時の話し手が話す自信をなくすような聞き方を確認し，本時は話し手にとって話しやすい聞き方を学ぶことを確認する。</p> <p>【TV会議システムを使って映像ありで話す，音声のみで話す，の2パターンを行うことで，相づちやうなずきなどの大事さがわかりやすくなるように支援する。】</p> <p>【ロールプレイを見ながら，よいと思った動作や態度をコラボノートに書き込ませておき，ロールプレイが終わったらすぐに共有できるようにする。】</p> <p>3つのポイント</p>	<p>IWB</p> <p>TV会議システム</p> <p>TPC</p>

<p>知る。</p> <p><b>協働学習</b></p> <p>・「話し手が話しやすい聞き方」スキルの練習をする。</p> <p><b>一斉学習</b></p> <p>・今日のまとめをワークシートで振り返る。</p>	<p>①意識を集中しよう。 ②内容を理解しよう。 ③相手の話を引き出そう。</p> <p>【具体的な態度や行動を IWB で掲示する。】</p> <p>話し手、聞き手、観察係の3つの役割を決める。役割は交替していく。観察係は、聞き手が上手に聞いているかを見て、話が終わったら聞き手によかったところを伝える。</p>	<p>IWB</p>
<p>協働学習の実施状況</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> 児童生徒が教え合う場面があった <input checked="" type="checkbox"/> 児童生徒が話し合う場面があった</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 児童生徒が協力したり助け合ったりする場面があった</p> <p><input type="checkbox"/> 一人の発表を基に学級(学習集団)全体で考える場面があった</p> <p><input type="checkbox"/> 同じ問題について学級(学習集団)全体で話し合う場面があった</p> <p><input type="checkbox"/> ネットワークを活用して遠隔地と結んで学ぶ場面があった</p>	

<p>情報通信技術の活用のねらいと効果、課題</p>	
<p>活用のねらい</p>	<p>本時のねらいを電子黒板で提示し、大きく表示することで、児童生徒の理解を支援する。映像ありと音声のみのロールプレイを見せることで、「話し手が話しやすい」聞き方の言語的活動と非言語的活動それぞれを意識させる。</p> <p>コラボノートで、みんなが気付いた良い点を確認し合えることで、見るポイントや見方を共有する。</p>
<p>活用の効果</p>	<p>視覚支援の面で、ねらいやポイントを押さえるのに効果的であった。ロールプレイの際には、言語的活動と非言語的活動が、コラボノートにそれぞれ分かれてうまく出ている。</p>
<p>課題となる事項</p>	<p>ロールプレイを実際に目の前で行うのと、聞き手のみ目の前にいる今回の状況で行うのと、どのように効果の差があるのか確かめる必要がある。</p>

## 学びのイノベーション事業 授業実践報告 様式

学校名： 京都市立桃陽総合支援学校	
学級(学習集団)等の概要	
本時の学習集団等の特徴	<input checked="" type="radio"/> 通常の学習集団 <input type="radio"/> 通常とは異なる学習集団
	本時の学習集団の人数： 8人 <input type="checkbox"/> 複数学年の児童生徒で構成 <input type="checkbox"/> 習熟度別の学習集団を構成 <input type="checkbox"/> 小・中学校等との交流及び協働学習(次の2項の場合を除く) <input type="checkbox"/> 児童生徒の前籍校との交流及び共同学習 <input type="checkbox"/> 他の特別支援学校との交流 <input type="checkbox"/> 分校、分教室(病院内の学級を含む)等、普段は異なる場で学習する児童生徒で構成 <input type="checkbox"/> ベッドサイドで学習する児童生徒と教室で学習する児童生徒で構成 <input type="checkbox"/> 病院内の学級の児童生徒のみで構成 <input type="checkbox"/> ベッドサイドで学習する児童生徒のみ <input checked="" type="checkbox"/> 発達障害のある児童生徒が含まれる <input type="checkbox"/> 知的障害のある児童生徒が含まれる <input type="checkbox"/> 肢体不自由のある児童生徒が含まれる

学級(学習集団)等の概要	
授業日時:平成 25年 12月 6日 3時限目	学年: 中学部 第2学年
教科等	<input checked="" type="checkbox"/> 各教科 (国語) <input type="checkbox"/> 自立活動 <input type="checkbox"/> 総合的な学習の時間 <input type="checkbox"/> 特別活動 <input type="checkbox"/> その他 ( )
単元名	モアイは語る—地球の未来
単元・題材の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イースター島での出来事をもとに、筆者が主張していることを読み取り、述べる。</li> <li>・根拠となる事実を確かめながら、文章の構成や表現の仕方をとらえる。</li> <li>・事実を示しながら、自分の意見を書く。</li> </ul>
単元全体の流れ	第1時 <ul style="list-style-type: none"> <li>・音読。</li> <li>・四つの疑問を探す。</li> <li>・疑問①②の答えを探す。何を根拠にそのように書いたのか、書く。</li> </ul> 第2時 <ul style="list-style-type: none"> <li>・疑問③④の答えを探す。</li> <li>・森が消滅してから文明が崩壊するまでの経緯を模式図で表す。どのような事実に基づいているかも書く。</li> </ul> 第3時 <ul style="list-style-type: none"> <li>・模式図を発表する。</li> <li>・筆者の警告を聞いて、私たちの資源の使い方はどうであるか。自分はどうしようと思ったか、意見文を書く。</li> </ul> 第4時 <ul style="list-style-type: none"> <li>・意見文を発表する。</li> <li>・互いの意見文について、評価をし合う。</li> <li>・コメントを聞き、自分の改善点を書く。</li> </ul>

本時の目標	(1)事実を示しながら, 自分の意見を書くこと。 (2)意見文を交流し, 評価し合うこと。
本時の授業形態	本時の授業の場
<input checked="" type="checkbox"/> 一斉学習 <input checked="" type="checkbox"/> 協働学習 <input checked="" type="checkbox"/> 個別学習	<input checked="" type="checkbox"/> 児童生徒が1か所に集まって実施 <input type="checkbox"/> 校内の複数の教室等(同一敷地内)をネットワークで結んで実施 <input type="checkbox"/> 本校、分校、分教室(病院内の学級を含む)等をネットワークで結んで実施 <input type="checkbox"/> 本校等の教室と病院・施設等(病院内の学級を除く)をネットワークで結んで実施 <input type="checkbox"/> 本校等の教室と小・中学校、他の特別支援学校等をネットワークで結んで実施
本時の指導体制	<input checked="" type="checkbox"/> 担当教員1名のみ <input type="checkbox"/> 複数教員による指導 <input type="checkbox"/> ICT支援員によるサポート <input type="checkbox"/> 特別支援教育支援員等によるサポート(主として学習支援) <input type="checkbox"/> 特別支援教育支援員等によるサポート(主として介助等)

本時における情報通信技術の活用	
活用した機器	IWB, TPC, 学習支援システム
活用したコンテンツ	
活用の目的	<input checked="" type="checkbox"/> 課題の提示や動機付け <input checked="" type="checkbox"/> まとめや振り返り <input checked="" type="checkbox"/> 児童生徒による発表や話し合い、教え合い <input type="checkbox"/> 教員による説明 <input type="checkbox"/> 観察・実験や調査の記録 <input checked="" type="checkbox"/> レポート、作品等の作成 <input type="checkbox"/> 繰り返しによる定着 <input type="checkbox"/> 直接経験の代行 <input type="checkbox"/> 意志の伝達

本時の展開		
学習の流れと児童生徒の活動	指導・支援のポイント	使用した機器・コンテンツ
<b>個別学習</b> ① 意見文の続きを書く。	<b>【IWB, TPC】構成のパターン</b> ①一文で書く。②文章で書く。	IWB(指導者), TPC(生徒)
<b>一斉学習</b> ① 意見文を発表する。	<b>【IWB, TPC, 学習支援システム】</b> ・各自の意見文を順番にIWBに出す。 ・話す速度や音量, 言葉の調子や間の取り方などに注意して, わかりやすい発表となるよう支援する。	IWB(指導者), TPC(生徒)
<b>個別→一斉→個別</b> ①互いの意見文について, 評価をし合う。 ②コメントを聞いて, 自分の改善点を書く。	<b>【IWB, TPC, 学習支援システム】</b> ・相手が述べている意見に説得力があるかどうか, コメントする。 ・意見そのものの是非を問うものではない。	IWB(指導者), TPC(生徒)
協働学習の	<input type="checkbox"/> 児童生徒が教え合う場面があった <input type="checkbox"/> 児童生徒が話し合う場面があった	

実施状況	<input type="checkbox"/> 児童生徒が協力したり助け合ったりする場面があった <input checked="" type="checkbox"/> 一人の発表を基に学級(学習集団)全体で考える場面があった <input type="checkbox"/> 同じ問題について学級(学習集団)全体で話し合う場面があった <input type="checkbox"/> ネットワークを活用して遠隔地と結んで学ぶ場面があった
------	--

情報通信技術の活用のねらいと効果、課題	
活用のねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電子黒板で提示したことを、個人のタブレットに配信し、自分の手元で見て学習を進める。</li> <li>・視覚的な資料は、電子黒板で大きく提示すると同時に各生徒のTPCに配信する。</li> <li>・ICTを活用して、集中できない生徒に、集中できる瞬間と距離感を与える。</li> </ul>
活用の効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習支援システムを活用し、一斉にファイルを送信することで、時間短縮になった。</li> <li>・意見文を電子黒板に提示して発表を聞くだけでは、文字が小さくて見えにくかったが、各自のTPCを活用し手元で見ることで、視覚的にわかりやすかった。</li> <li>・それぞれの意見文を人数分印刷しなくても、各自のTPCを活用することで、自分の見たい意見文を見ることができ、評価しあうことができた。</li> </ul>
課題となる事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習支援システムを活用したが、通信がうまくいかないTPCがあった。</li> <li>また、通信が途中で切れてしまい、こちらのデータが届かなくなった。</li> </ul>

## 学びのイノベーション事業 授業実践報告 様式

学校名： 京都市立桃陽総合支援学校	
学級(学習集団)等の概要	
本時の学習集団等の特徴	<input checked="" type="radio"/> 通常の学習集団 <input type="radio"/> 通常とは異なる学習集団
	本時の学習集団の人数： 9人 <input type="checkbox"/> 複数学年の児童生徒で構成 <input type="checkbox"/> 習熟度別の学習集団を構成 <input type="checkbox"/> 小・中学校等との交流及び協働学習(次の2項の場合を除く) <input type="checkbox"/> 児童生徒の前籍校との交流及び共同学習 <input type="checkbox"/> 他の特別支援学校との交流 <input type="checkbox"/> 分校、分教室(病院内の学級を含む)等、普段は異なる場で学習する児童生徒で構成 <input type="checkbox"/> ベッドサイドで学習する児童生徒と教室で学習する児童生徒で構成 <input checked="" type="checkbox"/> 病院内の学級の児童生徒のみで構成 <input type="checkbox"/> ベッドサイドで学習する児童生徒のみ <input checked="" type="checkbox"/> 発達障害のある児童生徒が含まれる <input type="checkbox"/> 知的障害のある児童生徒が含まれる <input type="checkbox"/> 肢体不自由のある児童生徒が含まれる

学級(学習集団)等の概要	
授業日時：平成 25年 12月 6日 3時限目	学年： 中学部 第3学年
教科等	<input checked="" type="checkbox"/> 各教科 (社会) <input type="checkbox"/> 自立活動 <input type="checkbox"/> 総合的な学習の時間 <input type="checkbox"/> 特別活動 <input type="checkbox"/> その他 ( )
単元名	国民主権と日本の政治
単元・題材の目標	・法に基づく公正な裁判の保障があることについて理解することができる
単元全体の流れ	法を守る裁判所 裁判のしくみと人権尊重 わたしたちと司法 裁判員シミュレーション (本時)
本時の目標	・裁判員制度のしくみについて具体的に理解し、参加する意欲をもつことができる。 ・模擬裁判を通じて、法に基づいた論理的な思考方法を学び、多面的・多角的な見方や考え方により、自他の意見を理解し表現できる力を培う。
本時の授業形態	本時の授業の場
<input checked="" type="checkbox"/> 一斉学習 <input checked="" type="checkbox"/> 協働学習 <input checked="" type="checkbox"/> 個別学習	<input checked="" type="checkbox"/> 児童生徒が1か所に集まって実施 <input type="checkbox"/> 校内の複数の教室等(同一敷地内)をネットワークで結んで実施 <input type="checkbox"/> 本校、分校、分教室(病院内の学級を含む)等をネットワークで結んで実施 <input type="checkbox"/> 本校等の教室と病院・施設等(病院内の学級を除く)をネットワークで結んで実施 <input type="checkbox"/> 本校等の教室と小・中学校、他の特別支援学校等をネットワークで結んで実施
本時の指導体制	<input checked="" type="checkbox"/> 担当教員1名のみ <input type="checkbox"/> 複数教員による指導 <input type="checkbox"/> ICT支援員によるサポート <input type="checkbox"/> 特別支援教育支援員等によるサポート(主として学習支援) <input type="checkbox"/> 特別支援教育支援員等によるサポート(主として介助等)



協働学習の実施状況	<input checked="" type="checkbox"/> 児童生徒が教え合う場面があった <input checked="" type="checkbox"/> 児童生徒が話し合う場面があった <input checked="" type="checkbox"/> 児童生徒が協力したり助け合ったりする場面があった <input type="checkbox"/> 一人の発表を基に学級(学習集団)全体で考える場面があった <input checked="" type="checkbox"/> 同じ問題について学級(学習集団)全体で話し合う場面があった <input type="checkbox"/> ネットワークを活用して遠隔地と結んで学ぶ場面があった
-----------	--

情報通信技術の活用のねらいと効果、課題	
活用のねらい	視覚的資料を使うことによって、生徒の想像力、思考力を助ける。 身近な人物を登場させることによって、裁判員裁判が自分たちの生活と密接にかかわることを自覚させる。
活用の効果	裁判の流れや証言の内容を理解する手助けとなった。 文章で表現することが苦手な生徒も話し合いに参加し、自分の考えを発表できた。
課題となる事項	情報を共有するためのコラボノート入力に集中しすぎ、予定時間をオーバーすることがある。

## 学びのイノベーション事業 授業実践報告 様式

学校名: 京都市立桃陽総合支援学校		
学級(学習集団)等の概要		
本時の学習集団等の特徴	<input type="radio"/> 通常の学習集団 <input checked="" type="radio"/> 通常とは異なる学習集団	本時の学習集団の人数: 5人
	<input checked="" type="checkbox"/> 複数学年の児童生徒で構成 <input type="checkbox"/> 習熟度別の学習集団を構成 <input type="checkbox"/> 小・中学校等との交流及び協働学習(次の2項の場合を除く) <input type="checkbox"/> 児童生徒の前籍校との交流及び共同学習 <input type="checkbox"/> 他の特別支援学校との交流 <input type="checkbox"/> 分校、分教室(病院内の学級を含む)等、普段は異なる場で学習する児童生徒で構成 <input checked="" type="checkbox"/> ベッドサイドで学習する児童生徒と教室で学習する児童生徒で構成 <input type="checkbox"/> 病院内の学級の児童生徒のみで構成 <input type="checkbox"/> ベッドサイドで学習する児童生徒のみ <input type="checkbox"/> 発達障害のある児童生徒が含まれる <input checked="" type="checkbox"/> 知的障害のある児童生徒が含まれる <input type="checkbox"/> 肢体不自由のある児童生徒が含まれる	

学級(学習集団)等の概要	
授業日時: 平成 25年 5月23日 2時限目	学年: 中学部 第 3学年
教科等	<input type="checkbox"/> 各教科 (美術) <input type="checkbox"/> 自立活動 <input type="checkbox"/> 総合的な学習の時間 <input checked="" type="checkbox"/> 特別活動 <input type="checkbox"/> その他 ( )
単元名	民族音楽にふれよう(世界の打楽器)
単元・題材の目標	昔からある他国の打楽器に親しむことができる。 高音パートと低音パートに別れてリズムうちができる。
単元全体の流れ	第1時: 他国の打楽器にふれ、その特徴を知る。 第2時: 高音パートと低音パートに別れてリズムうちをする。 第3時: 基本リズムに合わせて演奏することができる。 第4時: 演奏を振り返り、感想を発表することができる。
本時の目標	他国の打楽器を使い、一定のテンポに合わせてリズムうちをすることができる。
本時の授業形態	本時の授業の場・病室
<input checked="" type="checkbox"/> 一斉学習 <input type="checkbox"/> 協働学習 <input type="checkbox"/> 個別学習	<input type="checkbox"/> 児童生徒が1か所に集まって実施 <input checked="" type="checkbox"/> 校内の複数の教室等(同一敷地内)をネットワークで結んで実施 <input type="checkbox"/> 本校、分校、分教室(病院内の学級を含む)等をネットワークで結んで実施 <input type="checkbox"/> 本校等の教室と病院・施設等(病院内の学級を除く)をネットワークで結んで実施 <input type="checkbox"/> 本校等の教室と小・中学校、他の特別支援学校等をネットワークで結んで実施
本時の指導体制	<input type="checkbox"/> 担当教員1名のみ <input checked="" type="checkbox"/> 複数教員による指導 <input type="checkbox"/> ICT支援員によるサポート <input type="checkbox"/> 特別支援教育支援員等によるサポート(主として学習支援) <input type="checkbox"/> 特別支援教育支援員等によるサポート(主として介助等)

本時における情報通信技術の活用	
活用した	リモート・コンサートホールシステム・デジタルカメラ・タブレットPC・リモートカメラ

機器	
活用したコンテンツ	リモートカメラ閲覧ソフト(VB ビューワー)
活用の目的	<input type="checkbox"/> 課題の提示や動機付け <input type="checkbox"/> まとめや振り返り <input checked="" type="checkbox"/> 児童生徒による発表や話し合い、教え合い <input type="checkbox"/> 教員による説明 <input type="checkbox"/> 観察・実験や調査の記録 <input type="checkbox"/> レポート、作品等の作成 <input checked="" type="checkbox"/> 繰り返しによる定着 <input checked="" type="checkbox"/> 直接経験の代行 <input type="checkbox"/> 意志の伝達

本時の展開		
学習の流れと児童生徒の活動	指導・支援のポイント	使用した機器・コンテンツ
1. 本時で使用する楽器を知る。 2. 模範演奏を聴く。 3. 簡単なリズムうちをする。 4. 高音と低音に分かれて一定のテンポでリズムうちをして録音する。 5. 自分たちの演奏を振り返る。	病室の児童には、楽器について教師がわかりやすく説明する。 教師も一緒にリズムうちをする。 録音を再生して確認し、改善点を明確にする。	タブレットPC リモートカメラ デジタルカメラ リモート・コンサートホールシステム
協働学習の実施状況	<input type="checkbox"/> 児童生徒が教え合う場面があった <input type="checkbox"/> 児童生徒が話し合う場面があった <input checked="" type="checkbox"/> 児童生徒が協力したり助け合ったりする場面があった <input type="checkbox"/> 一人の発表を基に学級(学習集団)全体で考える場面があった <input checked="" type="checkbox"/> 同じ問題について学級(学習集団)全体で話し合う場面があった <input type="checkbox"/> ネットワークを活用して遠隔地と結んで学ぶ場面があった	

情報通信技術の活用のねらいと効果, 課題	
活用のねらい	録音と再生を繰り返し聞くことで、各自のパートの音が全体の中でどのように聞こえているか確認することができるようにする。病室の児童には、次回登校できるときに、スムーズに演奏に入っていける手立てとする。
活用の効果	自分たちの演奏を振り返ることにより、改善点を明確にすることができた。また、練習時間の短縮にもつながった。 病室の児童に学習内容を伝えることができ、その後の病室訪問時において、スムーズな対応ができた。
課題となる事項	集音マイクの性能がもっと向上することが期待される。マイクの設置位置により、各楽器の録音状態が変わるので、その点が難しく思えた。リモートカメラにおいても、設置場所が難しい。広角機能の向上や遠隔操作がもっと簡単にできるようになることを期待したい。

## 学びのイノベーション事業 授業実践報告 様式

学校名： 京都市立桃陽総合支援学校	
学級(学習集団)等の概要	
本時の学習集団等の特徴	<input type="radio"/> 通常の学習集団 <input checked="" type="radio"/> 通常とは異なる学習集団
	本時の学習集団の人数： 30人 <input checked="" type="checkbox"/> 複数学年の児童生徒で構成 <input type="checkbox"/> 習熟度別の学習集団を構成 <input type="checkbox"/> 小・中学校等との交流及び協働学習(次の2項の場合を除く) <input type="checkbox"/> 児童生徒の前籍校との交流及び共同学習 <input type="checkbox"/> 他の特別支援学校との交流 <input checked="" type="checkbox"/> 分校、分教室(病院内の学級を含む)等、普段は異なる場で学習する児童生徒で構成 <input type="checkbox"/> ベッドサイドで学習する児童生徒と教室で学習する児童生徒で構成 <input type="checkbox"/> 病院内の学級の児童生徒のみで構成 <input type="checkbox"/> ベッドサイドで学習する児童生徒のみ <input checked="" type="checkbox"/> 発達障害のある児童生徒が含まれる <input type="checkbox"/> 知的障害のある児童生徒が含まれる <input type="checkbox"/> 肢体不自由のある児童生徒が含まれる

学級(学習集団)等の概要	
授業日時:平成 25 年 12 月 6 日 5 時限目	学年: 中学部 第1～3学年・重複
教科等	<input checked="" type="checkbox"/> 各教科 (音楽) <input type="checkbox"/> 自立活動 <input type="checkbox"/> 総合的な学習の時間 <input type="checkbox"/> 特別活動 <input type="checkbox"/> その他 ( )
単元名	本校と分教室・病室を結んで楽しくアンサンブルをしよう
単元・題材の目標	<p>&lt;全体&gt;</p> <p>リモート・コンサートホールシステムを通して聴こえてくる音に合わせて、自分の担当する楽器を演奏する。「音を重ねる」というアンサンブルの楽しさを味わう。</p> <p>&lt;1年&gt;トーンチャイム 楽器の特徴を生かし美しい音色で演奏する技能を身に付ける。</p> <p>&lt;2年&gt;リコーダー 音域の幅を生かした曲の構成に関心を持ち表現するための技能を身に付ける。</p> <p>&lt;3年&gt;木琴・鉄琴 和音とアルペジオによる音の重なりを理解し、それを表現するためのアーティキュレーションやバランスを工夫する。</p> <p>&lt;分教室&gt;MIDI 楽器の操作(演奏法)を身に付け表現を工夫する。</p>
単元全体の流れ	<p>第1時 曲の概要をつかむ。楽譜を読み取り演奏法を知る。</p> <p>第2時 担当楽器の奏法等を知る。各自練習に入り表現活動する。</p> <p>第3時 リズムを理解し練習する。また正確に演奏する。</p> <p>第4時 旋律を意識し担当する楽器の音楽表現につなげ練習する。</p> <p>第5時 アンサンブルを意識して演奏する。美しい音色で演奏する技術を身に付ける。</p>

	第6時 全体の流れを意識してアンサンブルする。(本時6 / 6)
本時の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リモート・コンサートホールシステムを通して楽しくアンサンブルをする。</li> <li>・各楽器の特徴や曲の広がりを感じ取りながら、一体感のあるアンサンブルをする。</li> </ul>
本時の授業形態	本時の授業の場
<input checked="" type="checkbox"/> 一斉学習 <input checked="" type="checkbox"/> 協働学習 <input checked="" type="checkbox"/> 個別学習	<input type="checkbox"/> 児童生徒が1か所に集まって実施 <input type="checkbox"/> 校内の複数の教室等(同一敷地内)をネットワークで結んで実施 <input checked="" type="checkbox"/> 本校、分校、分教室(病院内の学級を含む)等をネットワークで結んで実施 <input checked="" type="checkbox"/> 本校等の教室と病院・施設等(病院内の学級を除く)をネットワークで結んで実施 <input type="checkbox"/> 本校等の教室と小・中学校、他の特別支援学校等をネットワークで結んで実施
本時の指導体制	<input type="checkbox"/> 担当教員1名のみ <input checked="" type="checkbox"/> 複数教員による指導 <input checked="" type="checkbox"/> ICT支援員によるサポート <input type="checkbox"/> 特別支援教育支援員等によるサポート(主として学習支援) <input type="checkbox"/> 特別支援教育支援員等によるサポート(主として介助等)

本時における情報通信技術の活用	
活用した機器	リモート・コンサートホールシステム・電子黒板 MIDI (電子楽器)・タブレットパソコン
活用したコンテンツ	楽譜 コラボノート
活用の目的	<input type="checkbox"/> 課題の提示や動機付け <input type="checkbox"/> まとめや振り返り <input checked="" type="checkbox"/> 児童生徒による発表や話し合い、教え合い <input type="checkbox"/> 教員による説明 <input type="checkbox"/> 観察・実験や調査の記録 <input type="checkbox"/> レポート、作品等の作成 <input type="checkbox"/> 繰り返しによる定着 <input checked="" type="checkbox"/> 直接経験の代行 <input type="checkbox"/> 意志の伝達

本時の展開		
学習の流れと児童生徒の活動	指導・支援のポイント	使用した機器 コンテンツ
<p><b>一斉学習</b></p> <p>①挨拶をする。(分教室の生徒が登校したらもう一度挨拶をする。)</p> <p>②本時の目標を確認する。</p> <p><b>協働学習</b></p> <p>③コラボノートの枠内に各パートでの目標を具体的に記入する。</p> <p>④パート練習を行う。表現を工夫し、美しい音色で演奏できるように同じ楽器のグループで練習する。</p> <p><b>一斉学習</b></p> <p>⑤各学年順番にリモート・コンサートホールシステムでつなぎ、本校・府立分教室・病室で合奏し、他のパート(学年)が感想を発表する。</p> <p>⑥全学年、リモート・コンサートホールシステムでつないだ音を意識して本校と府立分教室・病室をつなぎ合奏する。</p> <p>⑦録音した合奏を聴き、気がついたことを発表する。</p> <p>⑧全員でもう一度合奏をする。</p> <p>⑨挨拶をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カメラに向かって挨拶をする。</li> <li>・分かりやすく文章表現し板書する。</li> <li>・トーンチャイム, S・A リコーダー, 鉄琴, 木琴, MIDI 楽器(キーボード・打楽器)それぞれが目標を発表する。</li> <li>・自分のパートの確認ができるように指導者が机間指導する。</li> <li>・どんなところを注意して演奏するかポイントを板書する。</li> <li>・発表しやすいように, 良かったところ, 修正した方が良かったこと等を指導者が視点を与える</li> <li>・全体の演奏をリモート・コンサートホールシステムで録音する。</li> <li>・生徒の発表をわかりやすく説明し, 指導者も講評する。</li> <li>・感想を生かして, もう一度合奏しようと声をかける。</li> <li>・カメラに向かって挨拶をする。</li> </ul>	<p>IWB</p> <p>リモート・コンサートホールシステム</p> <p>TPC</p> <p>IWB</p> <p>IWB</p> <p>リモート・コンサートホールシステム</p>
協働学習の実施状況	<input type="checkbox"/> 児童生徒が教え合う場面があった <input type="checkbox"/> 児童生徒が話し合う場面があった <input checked="" type="checkbox"/> 児童生徒が協力したり助け合ったりする場面があった <input type="checkbox"/> 一人の発表を基に学級(学習集団)全体で考える場面があった <input checked="" type="checkbox"/> 同じ問題について学級(学習集団)全体で話し合う場面があった <input checked="" type="checkbox"/> ネットワークを活用して遠隔地と結んで学ぶ場面があった	

情報通信技術の活用のねらいと効果、課題	
活用のねらい	遠隔地を結んで合奏をする。大きな音を出せない病室でも MIDI 楽器を使って合奏に参加する。
活用の効果	離れた場所においても合奏をすることができた。目標や感想を共有することができた。
課題となる事項	ベッドサイドからの通信が安定せず、音が届かないことがあった。

## 学びのイノベーション事業 授業実践報告 様式

学校名： 京都市立桃陽総合支援学校		
学級(学習集団)等の概要		
本時の学習集団等の特徴	<input type="radio"/> 通常の学習集団 <input checked="" type="radio"/> 通常とは異なる学習集団	本時の学習集団の人数： 30人
	<input type="checkbox"/> 複数学年の児童生徒で構成 <input type="checkbox"/> 習熟度別の学習集団を構成 <input type="checkbox"/> 小・中学校等との交流及び協働学習(次の2項の場合を除く) <input type="checkbox"/> 児童生徒の前籍校との交流及び共同学習 <input type="checkbox"/> 他の特別支援学校との交流 <input checked="" type="checkbox"/> 分校、分教室(病院内の学級を含む)等、普段は異なる場で学習する児童生徒で構成 <input checked="" type="checkbox"/> ベッドサイドで学習する児童生徒と教室で学習する児童生徒で構成 <input type="checkbox"/> 病院内の学級の児童生徒のみで構成 <input type="checkbox"/> ベッドサイドで学習する児童生徒のみ <input checked="" type="checkbox"/> 発達障害のある児童生徒が含まれる <input checked="" type="checkbox"/> 知的障害のある児童生徒が含まれる <input type="checkbox"/> 肢体不自由のある児童生徒が含まれる	

学級(学習集団)等の概要	
授業日時:平成 25年 12月 6日 4時限目	学年: 中学部 第 1～3学年・重複
教科等	<input type="checkbox"/> 各教科 ( ) <input type="checkbox"/> 自立活動 <input checked="" type="checkbox"/> 総合的な学習の時間 <input type="checkbox"/> 特別活動 <input type="checkbox"/> その他 ( )
単元名	NEW文房具を考えよう
単元・題材の目標	文房具の調査と分析を行い、グループでアイデアを出しながら「NEW文房具」を企画する。グループの提案をプレゼン・ポスターセッションなどで交流し合い、最終的にまとめた企画を聞く人にうまく伝える。
単元全体の流れ	個人で文房具の調査をする。 チームでアイデアを出し合いながら、「新しい文房具」を考える。 考えた「新しい文房具」を企業に提案する。
本時の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループで企画した「NEW文房具」のプレゼンを、伝える相手を意識し工夫して発表する。</li> <li>・他のグループの発表をよく聞き、感心する点・良い点などを聞きとる。</li> </ul>
本時の授業形態	本時の授業の場
<input checked="" type="checkbox"/> 一斉学習 <input checked="" type="checkbox"/> 協働学習 <input checked="" type="checkbox"/> 個別学習	<input type="checkbox"/> 児童生徒が1か所に集まって実施 <input type="checkbox"/> 校内の複数の教室等(同一敷地内)をネットワークで結んで実施 <input checked="" type="checkbox"/> 本校、分校、分教室(病院内の学級を含む)等をネットワークで結んで実施 <input checked="" type="checkbox"/> 本校等の教室と病院・施設等(病院内の学級を除く)をネットワークで結んで実施 <input type="checkbox"/> 本校等の教室と小・中学校、他の特別支援学校等をネットワークで結んで実施
本時の指導体制	<input checked="" type="checkbox"/> 担当教員1名のみ <input type="checkbox"/> 複数教員による指導 <input checked="" type="checkbox"/> ICT支援員によるサポート <input type="checkbox"/> 特別支援教育支援員等によるサポート(主として学習支援) <input type="checkbox"/> 特別支援教育支援員等によるサポート(主として介助等)

本時における情報通信技術の活用	
活用した機器	・IWB ・TPC ・プロジェクター ・TV会議システム
活用したコンテンツ	・コラボノート 自作コンテンツ
活用の目的	<input checked="" type="checkbox"/> 課題の提示や動機付け <input type="checkbox"/> まとめや振り返り <input checked="" type="checkbox"/> 児童生徒による発表や話し合い、教え合い <input checked="" type="checkbox"/> 教員による説明 <input type="checkbox"/> 観察・実験や調査の記録 <input type="checkbox"/> レポート、作品等の作成 <input type="checkbox"/> 繰り返しによる定着 <input type="checkbox"/> 直接経験の代行 <input type="checkbox"/> 意志の伝達

本時の展開		
学習の流れと児童生徒の活動	指導・支援のポイント	使用した機器・コンテンツ
<p><b>一斉学習</b></p> <p>本時の活動内容の確認</p> <p>外部講師の紹介を聞く。</p>	<p>TV会議システムで本校と分教室をつなぐ。</p> <p>リモートカメラを設置する。</p> <p>本時の説明</p> <p>集中して聞くように促す。</p>	<p>IWB（指導者）</p> <p>TV会議システム</p>
<p><b>協働学習</b></p> <p>司会の進行でグループ毎にプレゼン発表を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・りことゆかいな仲間たち</li> <li>・Quatre Ensemble+1!</li> <li>・C&amp;A</li> <li>・Spitze Maty</li> <li>・KIA</li> <li>・ボール</li> </ul>	<p>グループの活動がスムーズにできるよう支援する。</p> <p>マイクを適切に使用するよう指導する。</p> <p>音声・プレゼンの共有が出来ているか、確認しながら進める。</p>	<p>IWB（生徒）</p> <p>PC</p> <p>TV会議システム</p>
<p><b>個別学習</b></p> <p>他チームの発表を聞き、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・NEW文房具のコンセプトが良かったか</li> <li>・相手に伝わるプレゼンであったか</li> <li>・感心する点、その他良い点</li> <li>・アドバイス</li> </ul> <p>を入力する。</p>	<p>集中して聞くように促す。</p> <p>コラボノートに感想などを入力する。</p>	<p>TPC（生徒）</p>
<p>外部講師の講評・評価を聞き、書き留める。</p>	<p>コラボノートに評価されたポイントを入力する。</p>	<p>TV会議システム</p>
<p><b>一斉学習</b></p>		

次回の活動について		
協働学習の実施状況	<input type="checkbox"/> 児童生徒が教え合う場面があった <input type="checkbox"/> 児童生徒が話し合う場面があった <input type="checkbox"/> 児童生徒が協力したり助け合ったりする場面があった <input type="checkbox"/> 一人の発表を基に学級(学習集団)全体で考える場面があった <input type="checkbox"/> 同じ問題について学級(学習集団)全体で話し合う場面があった <input checked="" type="checkbox"/> ネットワークを活用して遠隔地と結んで学ぶ場面があった	

情報通信技術の活用のねらいと効果、課題	
活用のねらい	<p>TV会議システムを活用することで、本校と分教室の生徒が協働して活動する。</p> <p>一人一台TPCを活用し、個別に文房具についての情報を収集する。</p> <p>収集した情報をTPCを活用し、まとめる。</p> <p>チーム内で話し合い、一つに決めた「これはすごい文具」をTPC、IWBを活用し発表する。</p> <p>NEW文房具発表会に本校・分教室・病室から参加し、発表する。</p>
活用の効果	<p>一人一台TPCがあるので、調べたいことを一人ひとりが自由にできる。</p> <p>無線LANが導入されているので、班活動ができる場所の自由度が高い。</p> <p>調べた内容をもとに、班内でまとめる活動がスムーズにできる。</p> <p>病室から班活動に参加することができた。</p>
課題となる事項	<p>病室から参加した生徒のTPCでプレゼンの共有ができず、何回か再起動をおこなった。</p> <p>原因が不明なので、対応が困難。</p>

## 学びのイノベーション事業 授業実践報告 様式

学校名: 京都市立桃陽総合支援学校	
学級(学習集団)等の概要	
本時の学習集団等の特徴	<input type="radio"/> 通常の学習集団 <input checked="" type="radio"/> 通常とは異なる学習集団
	本時の学習集団の人数: 15 <input checked="" type="checkbox"/> 複数学年の児童生徒で構成 <input type="checkbox"/> 習熟度別の学習集団を構成 <input checked="" type="checkbox"/> 小・中学校等との交流及び協働学習(次の2項の場合を除く) <input type="checkbox"/> 児童生徒の前籍校との交流及び共同学習 <input type="checkbox"/> 他の特別支援学校との交流 <input checked="" type="checkbox"/> 分校、分教室(病院内の学級を含む)等、普段は異なる場で学習する児童生徒で構成 <input checked="" type="checkbox"/> ベッドサイドで学習する児童生徒と教室で学習する児童生徒で構成 <input checked="" type="checkbox"/> 病院内の学級の児童生徒のみで構成 <input type="checkbox"/> ベッドサイドで学習する児童生徒のみ <input checked="" type="checkbox"/> 発達障害のある児童生徒が含まれる <input type="checkbox"/> 知的障害のある児童生徒が含まれる <input type="checkbox"/> 肢体不自由のある児童生徒が含まれる

学級(学習集団)等の概要	
授業日時:平成 25 年 10 月 10 日 5 時限目	学年:小学部第 1~6 学年 中学部第 1~3 学年
教科等	<input type="checkbox"/> 各教科 ( ) <input type="checkbox"/> 自立活動 <input type="checkbox"/> 総合的な学習の時間 <input checked="" type="checkbox"/> 特別活動 <input type="checkbox"/> その他 ( )
単元名	4 分教室集会
単元・題材の目標	集会活動を通して、集団に参加する手順や決まり、自分の役割等を理解し、主体的に活動する。
単元全体の流れ	月 1 回、TV 会議等を利用して各分教室を繋ぎ集団活動を行うことで、一つの学校としての一体感を持てる場とする。 第 1 時 児童生徒自己紹介, 児童生徒会報告 (4 月) 第 2 時 作文ゲーム, 児童生徒会連絡, 感想交流 (6 月) 第 3 時 ブックトーク, 児童生徒会報告, 感想交流 (7 月) 第 4 時 児童生徒紹介, 体ほぐしの運動, 夏休みの読書交流 (8 月) 第 5 時 TPC を使用した絵しりとり, 体ほぐしの運動, (9 月) 第 6 時 体ほぐしの運動, TPC を利用した活動, 感想交流 (10 月) ←本時 第 7 時 体ほぐしの運動, 感想交流 (11 月) 第 8 時 ブックトーク, 感想交流 (12 月) 第 9 時 児童生徒紹介, 2014 年の抱負, 感想交流 (1 月) 第 10 時 TPC を利用した活動, 感想交流 (2 月) 第 11 時 4 分教室版 卒業生を祝う会, 感想交流 (3 月)
本時の目標	集会活動を通して、集団に参加する手順や決まり、自分の役割等を理解し、主体的に活動する。
本時の授業形態	本時の授業の場
<input checked="" type="checkbox"/> 一斉学習	<input checked="" type="checkbox"/> 児童生徒が1か所に集まって実施



<p>チーム対抗 一つのお題に対してできるだけ同じ答えを上げるゲーム</p> <p>⑤児童生徒会からの連絡</p> <p><b>個別学習</b></p> <p>⑥コラボノートに感想を記入する</p>	<p>【各自の TPC でペイントソフトを活用し交流する】</p> <p>各自 TPC でコラボノートに感想を記入し次回以降の集会につなげる】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時は中学部のみ，小学部は後日行う。</li> <li>・コラボノートの操作に不慣れな児童生徒には個別に支援を行う。</li> </ul>	<p>TPC コラボノート</p>
<p>協働学習の実施状況</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> 児童生徒が教え合う場面があった    <input type="checkbox"/> 児童生徒が話し合う場面があった</p> <p><input type="checkbox"/> 児童生徒が協力したり助け合ったりする場面があった</p> <p><input type="checkbox"/> 一人の発表を基に学級(学習集団)全体で考える場面があった</p> <p><input type="checkbox"/> 同じ問題について学級(学習集団)全体で話し合う場面があった</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> ネットワークを活用して遠隔地と結んで学ぶ場面があった</p>	

<p>情報通信技術の活用のねらいと効果、課題</p>	
<p>活用のねらい</p>	<p>TV 会議や TPC を利用することにより、離れた場所にある分教室同士や、病棟から出られない状態にある子どもたちが同時に同じ活動に取り組めるようにする</p>
<p>活用の効果</p>	<p>遠隔地にいる子どもも教室内にいる子どもと同じ活動に参加することができた</p>
<p>課題となる事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの子どもの TPC への慣れ具合が違い、操作にかかる時間が違う</li> <li>・病室からの参加数が増えた場合、指導者が複数の病室を回ってTPCを配置・設定する必要がある。</li> </ul>